



平成29年度（2017年度）

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
（次世代研究者育成プログラム）

未来を拓く地方協奏プラットフォーム 成果報告書

平成30年3月

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

(次世代研究者育成プログラム)

未来を拓く 地方協奏プラットフォーム

平成 29 年度

(2017 年度)

成果報告書

平成 30 年 3 月

目次

1. はじめに.....	1
2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要	2
2-1. 概要.....	2
2-2. 連携機関.....	3
2-3. 推進体制.....	5
2-3-1. 平成 29 年度の推進体制	6
2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局	7
2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績	8
2-4. 年次計画（数値目標）	10
2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数	10
2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数.....	10
3. テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム.....	11
3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績.....	11
3-2. コンソーシアム教員の着任状況.....	14
3-3. コンソーシアム教員の育成.....	16
3-3-1. 自立的な研究環境確保について	16
3-3-2. コンソーシアム教員研修について	17
3-3-3. メンター制度など	19
3-4. コンソーシアム教員の評価.....	20
3-4-1. 第 1 期（平成 26 年度後期着任）	
4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム.....	23
4-1. 長期インターンシップ生の募集.....	23
4-1-1. 第 6 期（平成 29 年度前期）.....	23
4-1-2. 第 7 期（平成 29 年度後期）	23
4-2. 長期インターンシップの派遣実績.....	24
5. 成果報告会.....	26
5-1. 第 5 回成果報告会.....	26
5-2. 第 6 回成果報告会.....	27

6. DCやPDが積極的に関与する取組	29
6-1. 未来博士3分間コンペティション2017	29
6-2. 第2回課題提案型ワークショップ.....	31
6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム (The 14th Nano Bio Info Chemistry Symposium)	33
7. コンソーシアム人材セミナー.....	34
8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組み.....	41
8-1. ウェブサイト.....	41
8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU	43
8-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI	46
8-4. 4年手帳	49
9. 若手研究人材のキャリアスタート支援.....	50
9-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF	50
9-2. 博士人材キャリア相談室.....	58
10. 代表機関および共同実施機関の独自の取組.....	59
10-1. 広島大学独自の取組	59
10-1-1. 広島大学特別研究員成果報告会	59
10-1-2. HIRAKU 実践プログラム.....	62
10-1-3. 研究者紹介	65
10-2. 山口大学独自の取組み	69
10-3. 徳島大学の個別取組・成果	73
10-4. 日本学術振興会 (JSPS) 特別研究員説明会	76
11. 外部評価.....	77
11-1. 外部評価委員会	77
11-1-1. 第2回外部評価委員会	77
12. 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 中間評価	79

1. はじめに

本報告書は、2014(平成 26)年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)」に採択された「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」(HIRAKU)の、開始後 4 年目である 2017(平成 29)年度の活動とその成果をまとめたものです。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、広島大学が代表機関、山口大学と徳島大学が共同実施期間として、また、本書で述べるように、多くの連携機関の協力を得て、推進しています。博士課程後期学生を含む若手研究人材の育成を目的とするプラットフォーム(HIRAKU-PF)を共同で構築し、自己啓発や専門的能力開発の環境をつくり、また、長期インターンシップや共同研究等の機会をふやしています。さらに、テニュアトラック研究者をコンソーシアムとして共同で公募・選考し、より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集め、多様な研究環境と雇用形態を提供しています。また、優秀な女性研究者に活躍の場を提供する取組も進めています。

若手研究人材の養成やキャリアスタート支援は、一つの大学だけでできるものではありません。社会全体の問題として、多くの機関が協力して行うものです。本コンソーシアムはこのような考え方を基調として、問題意識を共有している大学や企業等が、組織の壁を越えて、連携し実施しています。HIRAKU では、連携大学に所属する大学院生にも、長期インターンシップに派遣する機会を提供しています。

広島大学では、科学技術人材育成費補助金「イノベーション創出若手研究人材養成」に採択された「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」(2009(平成 21)～2013(平成 25)年度)の取組により、若手研究人材を社会に輩出する、ということ意識して実施するようになりました。また、科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」に採択された「広大システム改革による女性研究者活躍促進」(2010(平成 22)～2014(平成 26)年度)の取組により、女性限定公募と女性研究者支援を実施してきました。「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、これら二つの取組を実施してきた経験と実績をふまえて、事業全体を設計し、実行しています。

本事業の開始 3 年目の 2016 年度には、補助事業の中間評価を受けました。すべての項目で所期の計画どおりに取組を進めている、と認められ、また、大きな波及効果も評価していただきました。この事業は、2014(平成 26)～2021(平成 33)年度の 8 年間の予定で実施しています。すでに折り返し点を過ぎようとしています。補助期間終了後も見据え、さらにより効果的な取組とするためには、多くのみなさまのご協力が必要です。ここに開始 4 年目の活動と実績をまとめております。本事業の活動状況をご覧いただき、ご忌憚のないご意見をいただきたいと考えています。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

平成 30 年 3 月 4 日

広島大学 理事・副学長(大学改革担当)

大学院理学研究科 教授

相田 美砂子

2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)」に、申請し、採択された。本報告書は、開始後4年目となった平成29年度の成果をまとめたものである。

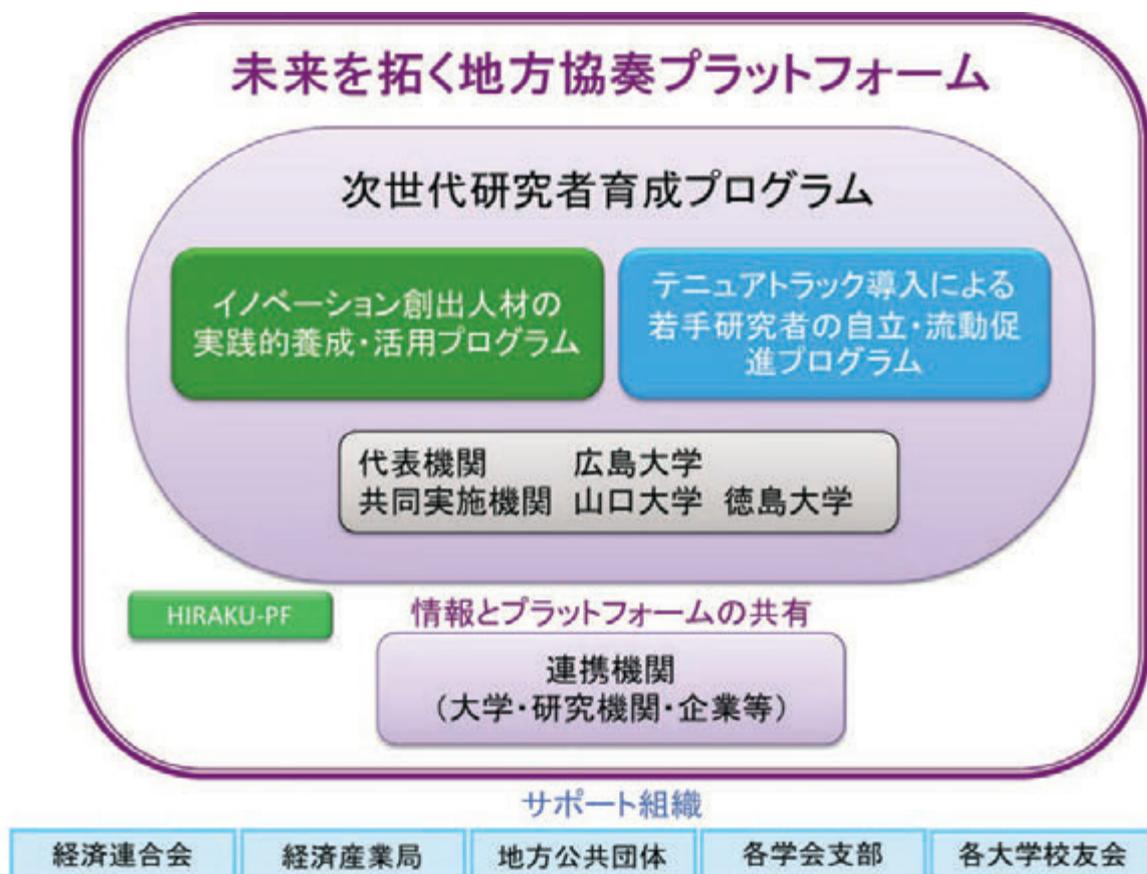
2-1. 概要

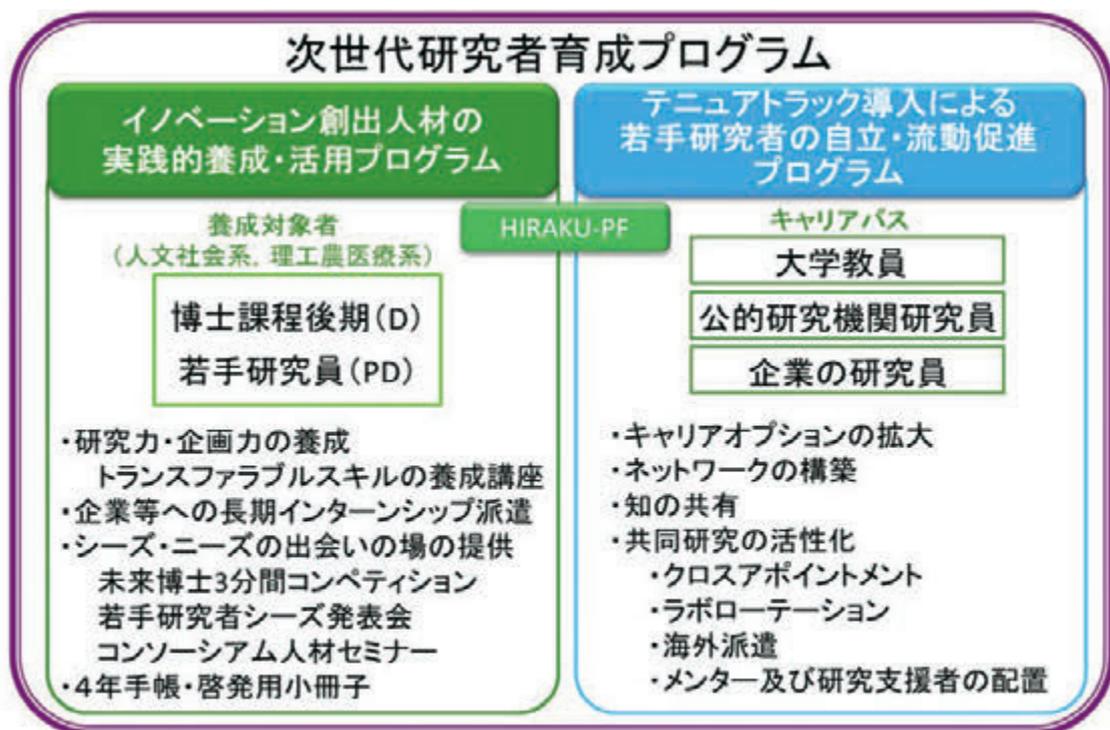
コンソーシアムの名称 未来を拓く地方協奏プラットフォーム
代表機関名: 国立大学法人 広島大学
総括責任者名: 広島大学長
共同実施機関名: 国立大学法人 山口大学, 国立大学法人 徳島大学
実施予定期間: 2014(平成26)年度～2021(平成33)年度
取組の概要:

中国四国地方の大学等を中心としたコンソーシアムを構築し、共同でテニュアトラック研究者を公募、選考する。より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集める。多様な雇用・流動形態(クロスアポイントメント、ラボローテーション等)の導入により、彼らが異なる知と交わり、ネットワークを構築できるように支援する。女性枠を設定し、女性の活躍促進につなげる。

博士課程後期学生を含む若手研究人材が、地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立できるように、彼らの実践的な養成・活用を可能とするプラットフォームを共同で構築する。トランスフェラブルスキル養成に必要なリソースの共有を図り、シーズ・ニーズのマッチングにより、インターンシップ、就職、共同研究等の機会を増やす。

若手研究人材の養成・活用を通じて、コンソーシアム内外の知の循環を加速させ、地域全体の社会的課題の解決やイノベーション創出を図り、地方創生につなげる。





2-2. 連携機関

平成30年2月末現在の連携機関は次のとおりであり、計59機関である。

国立大学法人

1	岡山大学
2	島根大学
3	鳥取大学
4	愛媛大学
5	香川大学
6	高知大学
7	鳴門教育大学
8	岐阜大学
9	大学共同利用機関法人 情報システム研究機構 国立遺伝学研究所

公私立大学法人

1	県立広島大学
2	広島市立大学
3	広島国際大学
4	立命館大学
5	高知工科大学

地方公共団体

1	広島県
---	-----

国の研究機関

1	国立研究開発法人 産業技術総合研究所中国センター
2	国立研究開発法人 産業技術総合研究所四国センター
3	独立行政法人 酒類総合研究所
4	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センター

地方の研究機関

1	地方独立行政法人 山口県産業技術センター
---	----------------------

公的機関

1	公益財団法人 くれ産業振興センター
2	一般社団法人 中国地域ニュービジネス協議会
3	中国経済連合会

企業

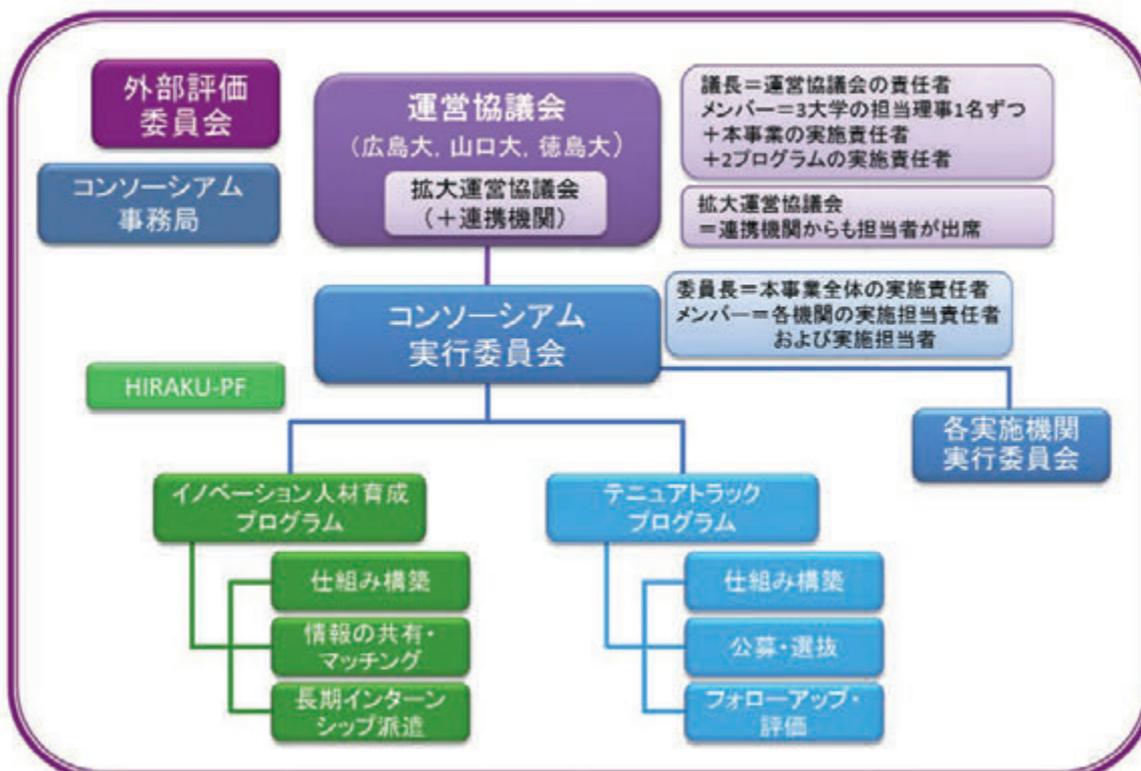
1	マツダ(株)
2	(株)サタケ
3	日本ハム(株)中央研究所
4	(株)JFE スチール
5	(株)ジェーイーエル
6	EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング(株)
7	(株)ワコムアイシティ
8	(株)東洋高圧
9	(株)日本製鋼所広島製作所
10	(株)アビー
11	(株)あじかん
12	(株)ジェイ・エム・エス
13	三菱ケミカル(株)大竹研究所
14	フマキラー(株)
15	帝人ナカシマメディカル(株)
16	メドエルジャパン(株)
17	中外テクノス(株)
18	富士通(株) 中国支社
19	(株)計測リサーチコンサルタント
20	三菱日立パワーシステムズ(株)呉工場
21	大塚製薬(株)
22	三菱重工業(株)広島製作所

23	中国電力(株)エネルギー総合研究所
24	東ソー(株)
25	戸田工業(株)
26	日本アイ・ビー・エム(株)
27	(株)MICOTO テクノロジー
28	(株)リバネス
29	ベネッセ教育総合研究所
30	三新化学工業(株)
31	西川ゴム工業(株)
32	矢崎総業(株)技術研究所
33	シュプリンガー・ジャパン(株) (シュプリンガー・ネイチャー)
34	(株)フェニックスバイオ
35	(株)トクヤマ徳山製造所

海外機関

1	Vitae (イギリス)
---	--------------

2-3. 推進体制



運営協議会は、実施機関である広島大学、山口大学、徳島大学の各担当理事、本事業の実施責任者、およびプログラム責任者で構成する。また、運営協議会のサブ組織として拡大運営協議会を置く。拡大運営協議会は、運営協議会に連携機関の実施責任者を加えたメンバーで構成する。運営協議会において、コンソーシアム全体および各機関の意思疎通を図る。運営協議会の下にコンソーシアム実行委員会を設置し、コンソーシアムとしての活動を進める。各実施機関においては、それぞれ実行委員会等を設置し、活動を進める。

運営協議会、拡大運営協議会、コンソーシアム実行委員会を必要に応じ開催し、各機関の事情をふまえながらコンソーシアム全体としての方針を決定し、実行する。

2-3-1. 平成 29 年度の推進体制

(1) コンソーシアムとしての責任者

総括責任者： 広島大学長 越智 光夫

実施責任者： 広島大学 理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子

運営協議会議長： 広島大学 理事・副学長(社会産学連携担当) 高田 隆
(担当事務:広島大学 社会産学連携室 社会連携 GL 角田 尚子)

運営協議会メンバー： 山口大学 理事・副学長(学術研究担当) 堀 憲次
徳島大学 理事・副学長(研究担当) 佐々木 卓也
広島大学 理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子
広島大学グローバルキャリアデザインセンター副センター長 教授
三須 敏幸

コンソーシアム実行委員会：

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」責任者
広島大学理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子

「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」責任者
広島大学グローバルキャリアデザインセンター副センター長 教授
三須 敏幸

(2) 各実施機関の責任者

(2-1) 広島大学

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」
広島大学 理事・副学長(研究担当) 山本 陽介
(担当事務:学術室 研究企画室 室長 小左古 学)

「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」

広島大学グローバルキャリアデザインセンター長 江坂 宗春
(担当事務:教育室キャリア支援 GL 豊島 祐一)

(2-2) 山口大学

山口大学 理事・副学長(学術研究担当) 堀 憲次
(担当事務:学術研究部研究推進課長 高橋 健二)

(2-3) 徳島大学

徳島大学 理事・副学長(研究担当) 佐々木 卓也
(担当事務:研究推進部産学連携・研究推進課長 小西 浩司)

2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局

(1) 平成 29 年度

専任職員

推進員(事務統括)	江森 早穂
事務職員(社会産学連携室)	鶴 剛弘(社会連携 G 主査)
コーディネーター	都留 良男
推進員	岡崎 亜紀子
推進員	東 真由美(H29.9 まで)
推進員	久保 叔子
推進員	熊手 そのみ
事業担当システム開発	細川 志織
事業担当システム開発	坂宗 和明

協力職員

社会産学連携室	角田 尚子(社会連携 GL)
	大財 健司(社会連携 G 主任)
学術室	岡本 拓士(研究企画室 URA)
	田尾 若菜(研究企画室 主任)

2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績

(1) 第 20 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 29 年 7 月 5 日(水)16:00~17:00

開催場所:シェラトングランドホテル広島 4F 泉

出席者:(山口大学)高橋課長(堀理事代理),(徳島大学)小西課長(佐々木理事代理)

(広島大学)相田理事, 渡邊社会連携部長(高田理事代理), 原教育部長,

他 7 名(合計 13 名)

議題と報告事項:

- ・第 7 期(平成 29 年度後期)コンソーシアム教員公募の公開ヒアリング対象者の決定
- ・第 8 期(平成 30 年度前期)コンソーシアム教員公募について
- ・第 7 期長期インターンシップ募集期間の延長について ほか

(2) 第 21 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 29 年 7 月 31 日(月)16:20~17:50

開催場所:シェラトングランドホテル広島 3F 水輝

出席者:(山口大学)堀理事,(徳島大学)佐々木理事

(広島大学)高田理事, 相田理事, 三須教授, 江坂グローバルキャリアデザインセンター長,

眞田人事部長, 渡邊社会連携部長,(連携機関)岡山大学町田教授, 広島県串岡課長, 中

国経済連合会山下部長, ジェイ・エム・エス中川部長 他 14 名(計 26 名)

議題と報告事項:

- ・先立って行われた第 7 期(平成 29 年度後期)コンソーシアム教員審査結果について
- ・コンソーシアム教員の評価について
- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2017」準備進捗状況について ほか

(3) 第 22 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 29 年 9 月 1 日(金)16:00~17:00

開催場所:ホテルグランヴィア広島 3F 弥山

出席者:(山口大学)高橋課長(堀理事代理),(徳島大学)小西課長(佐々木理事代理)

(広島大学)相田理事, 三須教授, 渡邊社会連携部長(高田理事代理), 眞田人事部長,

他 9 名(計 15 名)

議事と報告事項:

- ・第 8 期(平成 30 年度前期)コンソーシアム教員の募集分野と人数
- ・平成 29 年度第 7 期インターンシップ募集要項について
- ・第 2 回課題提案型ワークショップ開催について ほか

(4) 第 23 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 29 年 11 月 27 日(月)16:00~17:00

開催場所:シェラトングランドホテル広島 4F 華

出席者:(山口大学)高橋課長(堀理事代理),(徳島大学)小西課長(佐々木理事代理)
(広島大学)相田理事,三須教授,渡邊社会連携部長(高田理事代理),原教育部長,
他 8 名(計 14 名)

議題と報告事項:

- ・第 8 期(平成 30 年度前期)コンソーシアム教員公募の公開
- ・第 9 期(平成 30 年度後期)コンソーシアム教員公募について
- ・ラボローテーション一覧
- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2017」開催報告 ほか

(5) 第 24 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 29 年 12 月 25 日(月)13:30~14:30

開催場所:シェラトングランドホテル広島 3F 水輝

出席者:(山口大学)堀理事,(徳島大学)佐々木理事
(広島大学)高田理事,相田理事,三須教授,江坂グローバルキャリアデザインセンター長,
渡邊社会連携部長,原教育部長,(連携機関)中国経済連合会山下部長,産業技術総合研
究所中国センター田原所長補佐 他 13 名(計 23 名)

議題と報告事項:

- ・先立って行われた第 8 期(平成 30 年度前期)コンソーシアム教員審査結果について
- ・コンソーシアム教員の間接評価の方法について
- ・来年度以降の事業内容について ほか

(6) 第 25 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 30 年 3 月 15 日(木)10:30~11:30

開催場所:広島ガーデンパレス 2F 雅

出席者:(山口大学)高橋課長(堀理事代理),(徳島大学)小西課長(佐々木理事代理)
(広島大学)高田理事,相田理事,三須教授,江坂グローバルキャリアデザインセンター長
(連携機関)島根大学棟石事務長,愛媛大学奥本副課長 広島県平賀主査,
マツダ平野主幹 他 17 名(計 27 名)

議題と報告事項:

- ・平成 30 年度計画
- ・長期インターンシップ募集要項
- ・HIRAKU-PF の新機能の説明及び登録・利用の促進について ほか

2-4. 年次計画（数値目標）

2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
春着任		第2期	第4期	第6期	第8期	第10期	第12期	第14期
秋着任	第1期(冬)	第3期	第5期	第7期	第9期	第11期	第13期	第15期
広島大学	4	5	6	6	6	6	6	6
山口大学	0	2	1	1	1	1	1	1
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
計	4	8	8	8	8	8	8	8

2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
前期		第2期	第4期	第6期	第8期	第10期	第12期	第14期
後期	第1期	第3期	第5期	第7期	第9期	第11期	第13期	第15期
広島大学	4	14	14	14	14	14	14	14
山口大学	0	2	2	2	2	2	2	2
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
計	6	18	18	18	18	18	18	18

3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績

	H26 年度	H27 年度		H28 年度		H29 年度		H30 年度
春着任		第 2 期		第 4 期		第 6 期		第 8 期
秋着任	第 1 期(冬)		第 3 期		第 5 期		第 7 期	
広島大学	4	2 (2)	3 (1)	2 (2)	4 (4)	2 (1)	4 (2)	2 (1)
山口大学	0	2	0	1 (1)	0	0	1	0
徳島大学	0	0	1	1	0	1	0	0
公募開始	2014 年 11 月 25 日	2014 年 12 月 26 日	2015 年 4 月 28 日	2015 年 10 月 13 日	2016 年 4 月 28 日	2016 年 10 月 11 日	2017 年 3 月 10 日	2017 年 9 月 1 日
公募締切	2014 年 12 月 22 日	2015 年 1 月 29 日	2015 年 6 月 25 日	2015 年 12 月 10 日	2016 年 6 月 30 日	2016 年 12 月 12 日	2017 年 5 月 15 日	2017 年 10 月 31 日
コンソーシアム内公開ヒアリング	2015 年 1 月 23 日	2015 年 3 月 5 日	2015 年 8 月 26 日	2016 年 2 月 29 日	2016 年 8 月 26 日	2017 年 2 月 1 日	2017 年 7 月 31 日	2017 年 12 月 25 日
採用者計	4 [2]	4 [2]	4 [1]	4 [4]	4 [4]	3 [1]	5 [2]	2 [1] (予定)

(括弧内の数)→女性限定公募の件数 (内数)

[括弧内の数]→採用者の内の女性の数 [内数]

「次世代研究者」の公募について、本コンソーシアムでは、実施機関(広島大学、山口大学、徳島大学)がそれぞれ事業計画及び大学の計画に従った募集分野・人数・職階の候補を提案し、コンソーシアム運営協議会において決定した後、コンソーシアムで公募、選考を行い、実施機関で採用を行っている(本スキームで採用された教員を、以下コンソーシアム教員と記す)。

コンソーシアム教員の公募にあたっては、実施機関側にはその職に求める条件として、テニユアトラック制、年俸制での処遇を求めている。また、各実施機関内での早期定着、安定的な研究環境の確保、雇用後の流動性の担保、より素早く各大学で実力を発揮できる環境を整える、などの観点から、各大学の制度に則った上で、いわゆる定員枠の教員と可能な限り同じ取扱いを求めている。そのため、例えば広島大学では、コンソーシアム教員について、特殊な職階を設定せず、全て(通常の)助教として公募、採用している。

コンソーシアム教員となるものについては、以下の点を共通した要件としている。

・博士号を取得後 10 年以内(※1)又は同等程度の研究経歴(※2)を有し、かつ、40 歳未満(※3)である

若手研究者(ただし、臨床研修を課せられた医学系分野においては43歳未満)

※1 産前・産後休暇および育児休暇を取得した方は、その取得期間について10年を超えることが可能。

※2 博士課程に標準年限以上在学し、所定の単位を修得した上、退学した(いわゆる「満期退学者」)で、退学後10年以内の研究者。

※3 文部科学省の平成26年度科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業による補助対象のため、雇用対策法施行規則第1条の3第1項第3号ニに該当するとして実施。

- ・英語によるコミュニケーション能力を有すること。
- ・日本語又は英語による学部・大学院生への授業及び研究指導ができること。
- ・科学技術イノベーションの実現に向けて積極的な研究活動を行う意志をもつこと。

これらの共通する要件に加え、各機関・分野で必要と認められた要件については、特有事項としてこれを加えている。

公募の実施にあたっては、運営協議会での決定を受けて、コンソーシアム実行委員会と事務局がこれにあっている。第1期(平成26年度後期)、第2期(平成27年度前期)などの試行を経て、全体の公募スキーム、公募要領の文面、公募にあたって各機関と調整する点等もほぼ固まり、コンソーシアム型による公募システムとして確立した。

公募にあたっては、世界中から優秀かつ多様な人材を呼び込むために、様々な工夫を凝らして実施している。女性教員の少ない分野では、各実施機関に対して女性限定公募を行うよう積極的に働きかけた。その結果、第7期(平成29年度後期採用)までの28件の公募のうち13件を女性限定公募として行っている。また、女性限定公募でない場合も、公募要領上に女性研究者への支援を明記し、また各機関の環境整備状況を明記することにより、女性への積極的な応募を促している。同様に、外国人研究者を歓迎することを募集要項に表記し、海外にも積極的に情報を展開している。また、公募要領上では、各機関で共通する内容については、可能な限り詳細な情報を掲示すると共に、HPなどを紹介し、外国在住者でも応募しやすくなるよう心掛けた。さらに、国内外から寄せられた問い合わせに対しては、事務局で可能な限り早期かつ丁寧な対応を行った。従来の教員公募においては、各機関の人事担当部署及び各公募の責任教員が直接個別に対応しており、特に国際公募では大きな負担となっているが、これをコンソーシアムとして一括で対応し、また内容をQ&Aとして公開することで、応募者、事務双方の負担の軽減を図っている。

応募書類および公募要領の文面は、文部科学省「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業を実施した際の知見、及び、第1期公募での試行とフィードバックの上、ほぼ現在の形となった。応募にあたっては、第2期以降は以下の内容を共通して求めている。

- ①履歴書
- ②業績リスト※ 主要論文(5編以内)のコピーを添付すること。
- ③これまでの研究概要(A4 4ページ以内、図表含む)
- ④本コンソーシアムにおける研究計画(A4 4ページ以内、今後5年間の研究計画)
- ⑤科学技術イノベーションへの貢献に向けた抱負
- ⑥推薦者リスト(推薦者の所属、氏名、電話番号、電子メールアドレスを2名分記載)

応募者は、これらの内容を、コンソーシアムが指定する様式(フォーム)に記入して提出する。理工系から人文社会系まで、幅広い分野からの応募にあたって、また選考にあたって、過不足ない内容となっている。なお、応募書類は英語又は日本語で作成することができるが、用いる言語で内容に差がないよう、英日で共通したフォームを用いている。また、世界中から幅広い人材の応募を得るために、応募はすべて電子メールで受け付ける。

公募情報は、JREC-IN Portal, コンソーシアム HP, 各大学 HP 等において英語及び日本語で公開し、公募を実施した。その公募期間は2か月以上となるように設定している。

選考にあたっては、コンソーシアムにおける応募の取りまとめの後、各公募分野における一次選考を経て、コンソーシアム内公開ヒアリングによる二次選考を行っている。その後、コンソーシアム内公開ヒアリングによる結果を受け、審査委員会が最終候補者の推薦を運営協議会に対して行い、コンソーシアム運営協議会が採用候補者を決定する。その結果を各大学に通知し、各大学が採用手続きを進める形で行った。

二次選考のコンソーシアム内公開ヒアリングは、運営協議会メンバーを中心とした各大学の理事クラスにより面接形式で実施した。応募者はヒアリングにあたって、日本語又は英語の希望する言語を選択することができる。審査にあたるメンバーは、1分野につき6名であり、その中には他大学の理事が少なくとも2名入るため、他分野、他機関の高い学識経験者が自然と入る構成となっている。

また公開ヒアリングでは、コンソーシアム内の各機関からの参加者が(審査会への出席はできないものの)質疑への参加、コメントを付すことができるようになってきている。これにより、中四国地方に新たに呼び込む優秀な若手研究人材(=コンソーシアム教員)を、採用前からコンソーシアム内の他機関も知ることができる貴重な機会となっている。現在までのところ、具体的なラボローテーションやクロスアポイントメントにつながった直接的な事例はないが、今後の共同研究に向け相談を開始する事例も発生している。従来の大学教員採用においては、他機関がその人材を知る機会がなく、別途機会を設けなければ地域連携が進まなかったことを踏まえれば、優秀な若手研究人材を積極的に活かすための仕組みを構築できたとと言える。

これらの結果、第7期(平成29年度後期採用)までに、全採用教員28名のうち半数以上に当たる16名の女性教員の採用につながった。また、外国籍教員の採用は2割近い5名となった。コンソーシアム教員は集団として、研究分野のみでなく、ジェンダー、国籍などで多様なメンバーで構成されていると言える。コンソーシアム教員は、各分野での優秀な教員候補であるのみならず、多様な人材に対してリーダーシップを発揮しなければならない将来の産学官のリーダー候補であるが、本コンソーシアムではその目的に沿った人材を、公正なシステムに基づいて採用できている。

○第6期公募(平成29年度前期)

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。
- ・2016年10月11日公募開始, 2016年12月12日締切, 2017年2月1日最終選考, 2017年4月1日以降採用。

- ・公募分野:メタボローム栄養学(徳島大学), 生理化学(広島大学), 放射線防護・線量評価(広島大学・女性限定公募)

- ・3分野合計で7名の応募を得た(うち女性2名)

○第7期公募(平成29年度後期)

- ・JREC-IN, コンソーシアムHP, 各大学HPにて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会HP, メーリングリスト等においても周知。

- ・2017年3月10日公募開始, 2017年5月15日締切, 2017年7月31日最終選考, 2017年10月1日以降採用(平成29年度中を予定)。

- ・公募分野:応用化学(山口大学), 応用動物遺伝学(広島大学), 統計学(広島大学), 認知科学・実験心理学(広島大学・女性限定公募), 生物情報工学(広島大学・女性限定公募)

- ・5分野合計で52名の応募を得た(うち女性30名)

○第8期公募(平成30年度前期)

- ・JREC-IN, コンソーシアムHP, 各大学HPにて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会HP, メーリングリスト等においても周知。

- ・2017年9月1日公募開始, 2017年10月31日締切, 2017年12月25日最終選考, 2017年4月1日以降採用予定。

- ・公募分野:構造生物学(広島大学), 生命医療科学(広島大学・女性限定公募), 天文学(広島大学・女性限定公募), シミュレーション工学(広島大学・女性限定公募)

- ・4分野合計で34名の応募を得た(うち女性27名)

- ・シミュレーション工学分野は一次選考において適任者がなく, 採用予定機関において公募分野から再検討を行う(再公募を実施しない)こととなった。天文学分野は二次選考において適任者がなく, 同分野で再公募を実施する。

3-2. コンソーシアム教員の着任状況

公募分野	所属先	氏名	着任日
第1期			
欧米文学語学・言語学	広島大学 大学院文学研究科	松本 舞	2015年3月1日
マクロ経済学	広島大学 大学院社会科学研究科	中川 雅央	2015年3月1日
反応性機能分子の化学	広島大学 大学院理学研究科	Shang Rong	2015年3月1日
宇宙科学	広島大学 大学院理学研究科	岡部 信広	2015年3月1日

第2期			
病態制御学講座(獣 医衛生学分野)	山口大学 共同獣医学部	渋谷 周作	2015年4月1日
整形外科学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院	中島 祐子	2015年4月1日
細胞生物学もしくは 発生生物学	山口大学 大学院医学系研究科	原 裕貴	2015年6月1日
水産生物学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	若林 香織	2015年7月1日
第3期			
家畜繁殖学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	星野 由美	2015年11月1日
地球環境計画学	広島大学 大学院工学研究院	Lam Chi Yung	2015年11月1日
老年看護学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院	梶原 弘平	2016年2月1日
家畜繁殖学	徳島大学 生物資源産業学 部(仮称)設置準備室	谷原 史倫	2016年2月1日
第4期			
果樹園芸学	山口大学 大学院創成科学研究科	金 貞希	2016年4月1日
有機合成薬学	徳島大学 大学院医歯薬学研究部	Karanjit Sangita	2016年4月1日
食品科学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	Kumrungsee Thanutchaporn	2016年4月1日
スポーツバイオメカ ニクスあるいはスポ ーツ栄養学	広島大学 大学院理学研究科	緒形ひとみ	2016年9月1日
第5期			
物性物理	広島大学 大学院生物圏科学研究科	真木祥千子	2016年11月1日
大気海洋循環制御 論	広島大学 大学院生物圏科学研究科	岩本 洋子	2017年2月1日
半導体・ナノテクノ ロジー	広島大学 大学院先端物質科学研究科	水川 友里	2017年3月1日

文化人類学	広島大学 大学院総合科学研究科	山内（栗田）梨津子	2017年3月1日
第6期			
メタボローム栄養学	徳島大学 大学院医歯薬学研 究部 栄養科学部門	黒田 雅士	2017年4月1日
生理化学	広島大学学術院（大学院医歯 薬保健学研究院（薬））	小藤 智史	2017年6月1日
放射線防護・線量評 価	広島大学学術院（原爆放射線 医科学研究所）	廣田 誠子	2017年10月1日
第7期			
応用化学	山口大学 大学院創成科学研 究科工学系学域	吉田 真明	2018年3月1日 （予定）
認知科学・実験心理 学	広島大学学術院（大学院総合 科学研究科）	吉本 早苗	2017年10月1日
応用動物遺伝学	広島大学学術院（大学院生物 圏科学研究科）	中村 隼明	2017年10月1日
生物情報工学	広島大学学術院（大学院先端 物質科学研究科）	加藤 節	2017年12月1日
統計学	広島大学学術院（大学院理学 研究科）	伊森 晋平	2018年1月18日

3-3. コンソーシアム教員の育成

3-3-1. 自立的な研究環境確保について

コンソーシアムを通じた公募により採用された若手研究者は、基本的には各機関のいわゆる定員内の助教（テニュアトラック制）として採用されている。これにより、外部資金雇用の若手研究者等と比較し、各段に安定した身分と共に、研究内容・研究場所の自由を与え、安定性と流動性を同時に満たしている。

具体的には、テニュアトラック制の助教として採用されることで、まず任期中の自立的な環境を得ると共に、業績に応じて将来の安定した職が担保されている。また、特定のプロジェクト等に従事していないため、自身の知識・経験に則り外部資金を獲得し、自律的に責任をもって研究を実施することができている。さらには、年俸制で雇用されることで、退職金や諸手当等において、異動することの不利益を被ることがない。

また、通常の教員としての取扱いをコンソーシアムとして各機関に強く求めている。例えば広島大学ではコンソーシアム教員は、教育研究基盤経費（いわゆる校費）の面においても、他の助教と同じ取り扱いを受け、平成29年度は一人当たり約40万円程度を支給されている。これによ

り、本来の補助金制度で求められる、「自立的な研究活動がまず存在し、そこに対する補助」という形式を名実ともに整えた。これに加えて、本事業からのスタートアップ経費の支出により、真に自立的な研究環境の確保を実現できている。

研究状況については、定期的なコンソーシアムとしての確認として、四半期毎に研究の進捗状況・研究エフォートの報告を受け、また各年度の評価で実情を常時把握している。また、コンソーシアム教員本人又は部局メンターに対して、コンソーシアムメンター・コンソーシアム実行委員会・事務局が随時打ち合わせを行い、細かく状況を把握し、必要に応じて所属する部局長等との相談も実施している。コンソーシアム教員本人と部局メンターだけであれば、研究と講義負担、実務負担等でバランスを取ることが難しい事も懸念されるが、適宜コンソーシアムが少し外側から関わることで、研究エフォートの確保、研究と教育のバランス、本人のキャリア段階に応じた（部局での）仕事の割り振り等を目指している。

3-3-2. コンソーシアム教員研修について

コンソーシアム教員の各人は、各大学で通常の助教として採用されるため、各大学で新任教員に対するファカルティディベロップメント（FD）などを通じて、助教としての基礎力を身に付けることになる。しかし、各大学におけるFDプログラム自体も試行を続けている段階であり、これを補うべき部分もある。特に、コンソーシアム教員には、産学連携等を通じ幅広い舞台で活躍する能力、異分野と連携する能力が求められている。これらの能力は、将来的には大学教員に通常備わっているべき能力と思われるが、現時点ではこの能力開発に向けた取組を別に行う必要がある。

また、コンソーシアム教員は来年度には総計40名となる見込みである。人数が増えた中でも、教員のキャリアアップに適切に資するためには、各部局・機関の研修の仕組みを積極的に活用することが欠かせない。そこで、コンソーシアムとしては、教員の状況をモニタリング（評価）し、必要に応じて情報提供・指導を行い、またFD等と相補的な研修を実施する、無駄の少ない継続的な仕組みの構築を目指している。

上記の通り、コンソーシアム教員の研修については、各機関における新人研修等の実施を前提とし、その内容を補うものとして実施している。例えば広島大学では、教育の質保証に資するため、新任教員に対して、教員として働くために知っておくべき基本的知識の獲得やスキル向上の機会を提供することを目的して、平成25年10月以降新たに着任する教員に対して、「新任教員研修プログラム」の20時間以上の受講を必須化し、平成26年4月からプログラムの運用を開始している。広島大学に在籍するコンソーシアム教員は現在まですべてこの対象者であり、随時、「新採用教職員研修」や「大学教育論」などを通年で随時受講している。

それらのFDを縦糸として、その内容を補うもの、横糸となる内容をコンソーシアムとしての主な対象として、コンソーシアム教員研修として企画・実施している。コンソーシアム事務局・コンソーシアム教員が主催する研修については、特に教員キャリア初期の研究者向けに、複数大学・複数分野の教員が参加することにより、効果が高まるよう企画した。日本語に不慣れなコンソーシアム教員が積極的に参加できるようにするため、英語で実施している。また、他の組織が主催

するセミナー等についても、その目的が合致するものについて、コンソーシアムが共催となり、コンソーシアム教員への多様な研修機会を提供している（以下、事務局・コンソーシアム教員が主催したものに○を、他の組織が主催したものに□を付した）。また特に平成 28 年度以降開催の研修については、積極的に TV 会議システムを用いて、教員の参加負担を減らす試みを行っている。

平成 29 年度

○The 7th HIRAKU Consortium Researchers' Conversations

（第 19 回コンソーシアム教員研修）（2017（平成 29）年 5 月 19 日（金））

広島大学の Lam, Chi Yung 助教, Kumrungsee, Thanutchaporn 助教がオーガナイザーを務め、広島大学 ライティングセンター ライティングフェロー, Carter, Karen 氏から「Brushing Up Scientific Writing Skills」の講義を受けた。コンソーシアム教員の学術的スキルの向上と参加者間の相互理解・交流が図られた。

○コンソ教員集中研修 2017

（第 20 回コンソーシアム教員研修）（2017（平成 29）年 9 月 3 日（日）-4 日（月））

「コンソ教員集中研修 2017」として広島大学において、2 日間にわたり、7 つのセッション（研修）を集中的に開催した。なお本イベントは、広島大学学術室と共同で実施し、また政策研究大学院大学 SciREX センターを共催として協力を得た。教員は、クラウドファンディングを含めた多様な資金獲得方法、オープンサイエンス等の社会状況の変化、またそれらに適した自身の研究紹介方法について、講義及びワークショップによる集中的な研修を受けた。また同時に、研究関連分野の実務者と接する機会を得ることで、自身の社会的な立ち位置を知る機会となった。



講師：

小賀坂康志（JST 知識基盤情報部長）

浅野佳那（JST 研究開発改革推進部 副調査役）

柴藤亮介（アカデミスト 社長）

岡村麻子（政策研究大学院大学 専門職）

鈴木榮一郎（広島大学 客員教授（HIRAKU メンター））

岡本拓士（広島大学学術室研究企画室 URA）

□平成 29 年度広島大学全学 FD 「研究力強化概論」

(第 21 回コンソーシアム教員研修) (2017 (平成 29) 年 11 月 24 日 (金))

広島大学 学術室 主催

コンソーシアム教員は、広島大学の研究力に関する現状を理解し、広島大学が掲げる研究力に関する・理念目標を共有することを目的として山本陽介理事(研究担当)の講義を受けた。なお、今回は引き続き、特別講演会が開催され、総合科学技術・イノベーション会議 原山優子氏により「科学技術イノベーションの基盤的な力の強化～その心は?～」と題した講演へ参加した。コンソーシアム教員は大学の新任教員として積極的に出席した。一方、欠席者には情報提供を行った。

□平成 29 年度広島大学全学 FD 「研究マネジメント研修」

(第 22 回コンソーシアム教員研修) (2017 (平成 29) 年 12 月 20 日 (火))

広島大学 学術室 主催

大学教員としての様々な業務と並行して、どのように研究をマネジメントするかについて理解し、またその両立にあたって、様々な支援や順守すべき項目について学ぶことを目標とした。広島大学太田茂副理事(研究企画担当)が「研究室マネジメントについて」と題して講義を行った。続いて、柳原 宏和准教授(広島大学 DR)が「研究キャリアのマネジメントについて」、小左古学高度専門職が「本学の学術支援について」と題して講義を行った。コンソーシアム教員は大学の新任教員として積極的に出席した。

○The 8th HIRAKU Consortium Researchers' Conversations

(第 23 回コンソーシアム教員研修) (2017 (平成 29) 年 12 月 7 日 (木))

広島大学 Science Communication Fellow の O'connor, Richard James 氏を講師として招き、「メディア公表を対象とした魅力的な研究紹介文の書き方」についての講義及びワークショップを行った。TV 配信により 3 会場を繋いだ。オーガナイザーは広島大学 岩本洋子助教・水川友里助教。



3-3-3. メンター制度など

各コンソーシアム教員には、2 人ずつメンターが配置されている。コンソーシアムとしては、企業等における研究経験の豊富な方をコンソーシアムメンターとして雇用し、コンソーシアムからの立場で各コンソーシアム教員に助言・指導を行っている(鈴木榮一郎広島大学客員教授)。各コンソーシアム教員とは、より良い研究キャリア構築に向け、コンソーシアム実行委員会による各年度評価への参加を含め、半年から一年に一度程度面談を行い、その他から得た情報を含め、

各教員の状況を第三者的に把握し、必要に応じて対応する。一方で、一人のコンソーシアムメンターで各分野の特性にすべて精通することは困難である。そこで、各コンソーシアム教員と同じ専門性を持つ教員（通常は所属する部局のシニア教員）を、部局メンターとした。部局メンターは、分野の特性に応じた指導を行うと共に、身近にいて、日々の指導、助言を行う。この、コンソーシアムメンターと部局メンターの二人で両面から助言、指導を行うことで、コンソーシアム教員は狭い分野に閉じこもらず、また個人的な関係にそれほど左右されず、教員としてのキャリア構築に向けた支援を受けることができる。現在広島大学では、大学としての正式な位置づけを検討している。

また、自立的、主体的に研究を実施するためには、競争的資金の獲得は特に欠かすことができない。このため、コンソーシアム実行委員会および事務局から、個々のコンソーシアム教員の専門分野・特性に応じて、日本語及び英語により、情報の提供、競争的研究資金カレンダーの作成及び提供、科研費等の申請書作成支援を実施している。こうした実行委員会・事務局の支援と、部局メンターの指導により、着任直後から競争的資金獲得に向けて動くことができ、実際に平成27年度には1名の外国籍教員が、JSPS 研究活動スタート支援を獲得することができた。また各年度の科研費についても積極的に取り組んでおり、平成29年度は広島大学所属のコンソーシアム教員のうち4名が、新たに研究代表者として採択された。このうち1名は、科研費（国際共同研究加速基金）へも採択された。また、山口大学のコンソーシアム教員が、その活発な研究活動について平成29年度文部科学大臣表彰の若手科学者賞を受賞するなど、各コンソーシアム教員の具体的な研究成果につながりつつある。

3-4. コンソーシアム教員の評価

コンソーシアム実行委員会が中心となり、コンソーシアムとして毎年の評価を実施している。コンソーシアム教員の着任後1年目、2年目の評価は面談を中心としたものであり、そこで得た情報を元に、必要に応じて所属（配属）部局への働きかけ、部局メンターとの相談を行っている。

また着任3年後までには中間評価、4年半後までには最終評価を実施し、これは各教員の所属部局のテニュア移行審査と連携して行う。

○毎年度評価

1年目評価及び2年目評価は、コンソーシアム教員の現状確認及びモニタリングを主とし、以下に基づき実施している。

評価目的：

コンソーシアム教員の活動状況や研究環境等を把握し、必要に応じて助言を与え、状況を改善する。

評価主体：

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、2名以上で構成する。

評価方法：

- ① 以下の内容について、被評価者が資料を作成し、提出。
 1. 原著論文数、研究発表数、共同研究数、外部資金獲得実績、講義数等の定量的な状況報告
 2. 自己評価（自己アピール）、次年度計画の記述
 3. 上記1に関連してそれぞれの具体的な情報の記述
- ② ①で提出された資料を元に評価者が各教員の現状を把握。
- ③ 評価部会による被評価者への面談。
- ④ 評価部会は運営協議会に評価結果を提出。

評価結果のフィードバック：

評価結果を被評価者、メンターに通知する。必要に応じて被評価者への新たな支援の検討や、各大学、部局に状況の改善を働き掛けを行う。

○中間評価

コンソーシアム教員に対して、各採用期の初めから3年後までの間に、中間評価を以下の様に実施している。教員に求めている情報及び基本的な流れは、毎年度評価とほぼ同様の内容である。平成29年度は、第1期採用教員4名について中間評価を実施した。また第2期採用教員4名については、平成29年度末までに評価プロセスを終える予定である。

中間評価の目的：

コンソーシアム教員としての任期の半分を過ぎるにあたり、これまでの教員としての活動状況を元に、コンソーシアムとしての評価を行う。また、各教員のテニユア審査に向けた進捗状況に照らし合わせて、必要に応じて本人に助言を与え、また所属機関及びコンソーシアム等各組織に評価結果を伝えることで、コンソーシアム教員のより良いキャリアに資することを旨とする。

評価の実施：

コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、3名以上で構成する。

評価の方法：

コンソーシアム教員が作成した報告書及び事務局が作成したコンソーシアムでの活動実績等を元に、評価部会において面談を実施し、評価を行う。

評価項目は、研究、教育、外部資金獲得、社会貢献、コンソーシアム活動の各項目及び総合評

価とする。コンソーシアム活動については、外部との共同研究のほか、教員研修等への参加状況、その他コンソーシアム事業への積極的な関与等を元に評価する。

評価点は、S, A, B, C, Dとする。Sは極めて優秀でありテニユア審査後は昇任が強く期待される場合にのみこれを付す。Aは優秀でありテニユア審査に確実に合格することが期待される場合にこれを付す。Bは概ね順調でありテニユア審査に合格することが期待される場合にこれを付す。Cは活動進捗に遅延が見られ改善を要する場合にこれを付す。Dは活動進捗に大幅な遅延が見られ、組織的な対応が求められる場合にのみこれを付す。

評価結果の取扱：

コンソーシアム実行委員長が各評価委員の評価結果を取りまとめる。その評価結果を、コンソーシアム教員、各所属組織長及びコンソーシアム運営協議会にそれぞれ通知、報告を行う。

4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

4-1. 長期インターンシップ生の募集

イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムでは、理工農系、医療系、人文社会系の枠組みにとらわれず、若手研究者が異なる領域にも果敢に挑戦し、社会を変革する意識と情熱を持った人材を育てることを目指している。その一環として、若手研究者が実際の企業や社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図ることを目的として、長期インターンシップ派遣制度を設けている。

コンソーシアムとして共通の公募要領を作成し、運営協議会で承認の後、コンソーシアム全体として公募を開始した。

4-1-1. 第6期（平成29年度前期）

募集期間：2017(平成29)年4月1日(土)～2017(平成29)年9月30日(土)

募集対象：(代表実施機関)広島大学、(共同実施機関)山口大学、徳島大学、(連携機関)岡山大学、島根大学、鳥取大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学、岐阜大学、県立広島大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学に在籍中の博士課程(博士課程前期を除く。)の学生あるいは博士課程(博士課程前期を除く。)修了後5年程度以内の任期付研究者。



4-1-2. 第7期（平成29年度後期）

募集期間：2017(平成29)年10月1日(日)～2018(平成30)年3月31日(土)

募集対象：(代表実施機関)広島大学、(共同実施機関)山口大学、徳島大学、(連携機関)岡山大学、島根大学、鳥取大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学、岐阜大学、国立遺伝学研究所、県立広島大学、高知工科大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学に在籍中の博士課程(博士課程前期を除く。)の学生あるいは博士課程(博士課程前期を除く。)修了

後5年程度以内の任期付研究者。



4-2. 長期インターンシップの派遣実績

平成29年度前期派遣開始 ※学年は派遣時

	名前	性別	国籍	所属	学年 /職名	派遣先	派遣期間	審査状況
1	Xue Jian fei	男	中国	広島大学大学院理学研究科化学専攻	D2	東ソー株式会社	2017/8/28~ 2017/10/27	広島大学 2017年5月審査
2	LI NING	男	中国	岐阜大学大学院連合農学研究科植物生産科学分野	D2	テクノスデータサイエンス・エンジニアリング株式会社	2017/9/1~ 2017/11/30	広島大学 2016年12月審査

平成29年度後期派遣開始 ※学年は派遣時

	名前	性別	国籍	所属	学年 /職名	派遣先	派遣期間	審査状況
1	伊崎翼	男	日本	広島大学大学院総合科学研究科総合科学専攻人間科学部門	D2	国立研究開発法人産業技術総合研究所	2017/10/16 ~ 2017/12/22	広島大学 2017年6月審査
2	CHAUDHRY TEHREEM	女	パキスタン	広島大学グローバルキャリアデザインセンター(大学院国際協力研究科平和共生講座)	特別研究員	国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所	2017/11/15~ 2018/2/14	広島大学 2017年10月審査

	名前	性別	国籍	所属	学年 ／職名	派遣先	派遣期間	審査状況
3	李夫平	男	中国	山口大学大学院東アジア研究科	D3	株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 山口支店	2017/12/1 ~ 2018/1/31	山口大学 2017年7月審査
4	辻田菜摘	女	日本	広島大学グローバルキャリアデザインセンター(大学院生物圏科学研究科水圏生物生産学講座)	特別研究員	丸善製薬株式会社	2018/1/12 ~ 2018/3/13	広島大学 2017年12月審査
5	楊典	女	中国	山口大学大学院東アジア研究科	D3	株式会社イズミ ゆめタウン廿日市店	2018/1/20 ~ 2018/03/23	山口大学 2017年7月審査
6	佐藤倫治	男	日本	広島大学大学院理学研究科数学先行	D1	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	2018/1/22 ~ 2018/3/23	広島大学 2017年12月審査
7	水落亮平	男	日本	広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻	D3	マツダ株式会社	2018/1/23 ~ 2018/3/23	広島大学 2017年10月審査
8	佟亜斎娜	女	中国	広島大学グローバルキャリアデザインセンター(大学院教育学研究科社会認識教育学講座)	特別研究員	中国地方総合研究センター	2018/1/25 ~ 2018/4/25	広島大学 2018年1月審査
9	柏木裕晴	男	日本	広島大学大学院先端物質科学研究科半導体集積科学専攻	D3	サッポロホールディングス株式会社	2018/1/29 ~ 2018/3/30	広島大学 2018年1月審査
10	小川光博	男	日本	山口大学大学院理工学研究科物質化学専攻	D2	株式会社 Transition State Technology	2018/1/29 ~ 2018/3/30	山口大学 2018年1月審査
11	成瀬公人	男	日本	徳島大学薬科学教育部	D1	東京都医学総合研究所	2018/2/1 ~ 2018/3/31	徳島大学 2017年12月審査
12	閔智群	男	中国	広島大学生物圏科学研究科生物資源科学専攻	D2	三島食品株式会社	2018/2/28 ~ 2018/4/27	広島大学 2017年10月審査

5. 成果報告会

5-1. 第5回成果報告会

日時:2017(平成 29)年 7 月 21 日(金)13:00~17:30

場所:広島大学 学士会館 2 階 レセプションホール
(東広島キャンパス)

プログラム:

12:30 開場

13:00 開会挨拶

広島大学 理事・副学長(教育・東千田担当) 宮谷 真人

13:10 基調講演

一般社団法人 日本経済団体連合会 産業技術本部長
吉村 隆 氏

13:50 質疑応答

14:00 休憩

14:10 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」説明

広島大学 理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子

14:20 イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

◆インターンシップ実施対象者による報告

(1)JAKKAMPUDI SATISH(広島大学大学院理学研究科 D2)

受入機関:東ソー株式会社 有機材料研究所 アミン誘導体グループ 柳瀬 学 氏

(2)陳 徳超(山口大学 大学院東アジア研究科 D1)

受入機関:株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 山口支店 阿比留 真二 氏

(3)MASKEY BIJAN(広島大学大学院国際協力研究科 D2)

受入機関:西川ゴム工業株式会社 管理本部 人事部 久保 勇人 氏

(4)飯島 遼平(広島大学大学院生物圏科学研究科 D2)

受入機関:サッポロホールディングス株式会社 グループ R&D 価値創造フロンティア研究所
加戸 久生 氏

(5)照喜名 歩(広島大学グローバルキャリアデザインセンター 特別研究員)

受入機関:ベネッセ教育総合研究所(受入報告代読)

(6)古川 善也(広島大学大学院教育学研究科 D2)

受入機関:ベネッセ教育総合研究所(受入報告代読)

15:50 質疑応答

16:05 テニューアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

◆テニューア・トラック教員による着任報告

緒形 ひとみ : 広島大学学術院 助教(大学院総合科学研究科)

岩本 洋子 : 広島大学学術院 助教(大学院生物圏科学研究科)



水川 友里 : 広島大学学術院 助教(大学院先端物質科学研究科)

栗田 梨津子 : 広島大学学術院 助教(大学院総合科学研究科)

黒田 雅士 : 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 助教

17:20 閉会挨拶

広島大学グローバルキャリアデザインセンター センター長 江坂 宗春

17:40 情報交換会



5-2. 第6回成果報告会

日時:2017(平成30年)2月2日(金) 14:00~17:30

場所:山口大学吉田キャンパス メディア講義室

プログラム:

14:00 開会挨拶

山口大学理事・副学長(研究担当) 堀 憲次

14:05 「北大における博士キャリア支援施策のご紹介」

北海道大学人材育成本部特任教授 樋口直樹氏

14:20 長期インターンシップ報告

(1) Xue Jianfei(薛劍飛)(広島大学理学研究科 D3)／

受入機関:東ソー株式会社有機材料研究所 野村昂生氏

(2) 伊崎 翼(広島大学総合科学研究科 D3)／

受入機関:産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター 木村健太氏

(3) 李 夫平(山口大学東アジア研究科 D3)／

受入機関:株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 増本義伸氏

15:15 「未来博士3分間コンペティション2017」報告

広島大学グローバルキャリアデザインセンター副センター長・教授 三須敏幸

15:25 休憩



15:40 テニュアトラック教員の着任報告

- (1) 広島大学大学院(大学院理学研究科)助教 真木祥千子
- (2) 広島大学大学院(大学院医歯薬保健学研究科)助教 小藤智史
- (3) 広島大学大学院(原爆放射線医科学研究所)助教 廣田誠子
- (4) 広島大学大学院(大学院総合科学研究科)助教 吉本早苗
- (5) 広島大学大学院(大学院生物圏科学研究科)助教 中村隼明
- (6) 広島大学大学院(大学院先端物質科学研究科)助教 加藤節

17:00 テニュアトラック教員のラボ・ローテーション報告

広島大学大学院(大学院生物圏科学研究科)助教 若林香織
(オーストラリア Curtin University)

17:15 博士課程修了者からのメッセージ

「私のキャリアにおける博士課程とNISTEP～大学院生活と最近のNISTEPでの仕事をふりかえって～」
文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP) 椿 光之助氏

17:30 閉会挨拶:徳島大学

17:50 情報交換会



6. DCやPDが積極的に関与する取組み

6-1. 未来博士3分間コンペティション2017

大学院博士課程後期の学生が、3分間の限られた時間内に自身の研究ビジョンや魅力を、中学生、高校生を含む一般聴衆にもわかるように伝える。学生のコミュニケーション力の向上を図ると同時に、社会における博士人材と博士研究に対する肯定的な理解の向上につなげる。

日時:2017(平成29)年9月24日(土)

10:00~17:15 (参加者:260名)

場所:東広島芸術文化ホール くらら 小ホール



プログラム:

10:00 開会式

開会挨拶:広島大学 理事・副学長(教育・東千田担当) 宮谷 真人

来賓挨拶:総合科学技術・イノベーション会議議員 原山 優子

10:15 未来を拓く!おもしろ研究最前線

「HIRAKUの取組み」 広島大学 理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子

「わきまえる」細胞 山口大学 助教 原 裕貴

猫が誘う魅惑の世界 広島大学 助教 松本 舞

10:40 3分間で未来を拓く!プレゼンテーション(日本語部門)

12:10 ランチ休憩

13:10 基調スピーチ

You, the Next! 次は、あなたの出番! 2016年 国際スピーチコンテスト 日本代表 増井玲子

13:30 3分間で未来を拓く!プレゼンテーション(英語部門)

15:00 [同時開催]1枚で未来を拓く!ポスターセッション

16:30 審査発表・表彰

17:10 閉会式





審査結果:

賞名	受賞者	タイトル
最優秀賞	広島大学 ノフィ シヤフティカ NOVI SYAFTIKA	Fueling your car with garbage and wastewater: possible?
HIRAKU学長特別賞	徳島大学 うえた りさ 上田 梨紗	植物の新育種技術の開発をより簡便に、より身近に
グローバル・チャレンジ賞	広島大学 ふじの ちえり 藤野 智恵里	オーダーメイドな薬物治療を目指して
優秀賞 (日本語部門)	徳島大学 うえた りさ 上田 梨紗	植物の新育種技術の開発をより簡便に、より身近に
優秀賞 (英語部門)	徳島大学 チョウ ユエフィ YUE HUI ZHANG	Functional tooth regeneration using bioengineer technology
オーディエンス金賞 (日本語部門)	徳島大学 ぼんどう まさひろ 板東 正浩	母なる海からの贈り物、LC-MUFAの力!
オーディエンス金賞 (英語部門)	広島大学 ノフィ シヤフティカ NOVI SYAFTIKA	Fueling your car with garbage and wastewater: possible?
オーディエンス銀賞 (日本語部門)	広島大学 ふじの ちえり 藤野 智恵里	オーダーメイドな薬物治療を目指して
オーディエンス銀賞 (英語部門)	広島大学 もりさこ しょうご 森迫 祥吾	Reveal the Hidden Properties of Boron
オーディエンス銀賞 (英語部門)	徳島大学 ディアン ヨシ アリナワティ DIAN YOSI ARINAWATI	Tooth regeneration makes us happy!
大塚賞	岐阜大学 ほりい かずひろ 堀井 和広	なぜ男性よりも女性のほうが便秘になりやすいのか
協和発酵バイオ賞	岐阜大学 おおえ ふみか 大江 史花	環境にやさしいピロガロールの合成方法
シュプリンガー・ネイチャー賞	広島大学 ノフィ シヤフティカ NOVI SYAFTIKA	Fueling your car with garbage and wastewater: possible?
中外テクノス賞	愛媛大学 よしのうち ゆか 芳之内 結加	アザランが教えてくれる環境汚染物質のリスク
IBM賞	岡山大学 よしかわ ゆみ 吉川 祐未	正極材料の改良で急速充電時の出力向上を目指す!
JSW日本製鋼所賞	広島大学 ぜにたに ひろし 銭谷 宙	有機半導体が世界の条件不利地域で活躍する!?
マツダ賞	鳥取大学 (山口大学配属) いいだ りょうへい 飯田 亮平	バクテリアたちの会話

6-2. 第2回課題提案型ワークショップ

若手研究者と社会をつなぎ、企業や地域社会の課題解決に貢献するためのマッチング事業の一環として開催した。社会が抱えている実際の課題やニーズを理解し、それらの課題解決のための種を一緒に探していくワークショップ。課題解決に向けたプロセスの中で、自分の専門性にとらわれない柔軟な発想力と応用力を身につけることを目的とし、企業2社からのテーマに基づき、計5回のワークショップを通じて解決策をチームで練り上げ、最終回にその成果を公開発表した。今回は広島大学大学院共通授業科目「イノベーション演習」の一環として行い、8名の履修生および1名の学部生を聴講生として含み、10名前後の企業・団体参加者と共にワークショップを進めた。



【課題提案】

<思考型テーマ>

1. 「つくだ煮のポジショニングをデザインする」 課題提案企業 株式会社ヒロツク
2. 「木の文化を再構築する」 課題提案企業 株式会社トイロ

<探求型テーマ>

3. 「つくだ煮の付加価値をサイエンスする」 課題提案企業 株式会社ヒロツク

【スケジュール】

- | | | | | |
|-----|-----------|-----------|-------------|--------------------|
| 第1回 | 課題提案と研究紹介 | 10月13日(金) | 13:00~17:50 | (会場: 広島大学東広島キャンパス) |
| 第2回 | 企業見学と現場訪問 | 10月27日(金) | 13:30~17:50 | (会場: 佐伯工業団地) |
| 第3回 | 検討ワークショップ | 11月17日(金) | 13:00~17:50 | (会場: 広島大学東広島キャンパス) |
| 第4回 | 検討ワークショップ | 12月1日(金) | 13:00~17:50 | (会場: 広島大学東広島キャンパス) |
| 第5回 | 成果発表会(*) | 12月15日(金) | 13:00~17:50 | (会場: 広島大学東広島キャンパス) |

(*)第5回成果発表会は、広島県、中国地方総合研究センターの後援などを得て、公開開催された。詳細は以下の通り。

日時:平成29年12月15日(金)13:00~17:40

場所:広島大学東広島キャンパス 中央図書館1F ライブラリーホール

参加者:計44名 (学外企業・団体23名, 学内5名, 発表者9名, 主催者7名)

<プログラム>

13:00 開会挨拶

13:05 基調講演「大学人が考える普及技術と普及する新技術のギャップ」

島田昌之氏 (広島大学大学院 教授 生物圏科学研究科/

株式会社 広島クライオプリザベーションサービス 代表取締役)

14:00 ワークショップを振り返って

14:10 成果発表

15:25 提案企業による講評

16:00 パネルディスカッション

「点を結んで、新しい価値を創る」 connecting the dots, crafting new values

パネリスト：提案企業 2 社代表 x 学生・研究者各チーム代表 4 名

16:50 全体総評

17:00 閉会挨拶

<成果発表の内容>

・テーマ 1: 株式会社ヒロツクの課題「佃煮のポジショニングをデザインする」に対しては、学生チームから佃煮の認知度向上を目指して、留学生をターゲットとした企画提案があった。

・テーマ 2: 株式会社トイロの課題「木の文化を再構築する」に対しては、若手研究者たちからヒノキと人の成長を重ね合わせたストーリーに焦点をあてたサービスについて提案があった。

・テーマ 3: 株式会社ヒロツクの課題「佃煮の付加価値をサイエンスする」に対しては、生産プロセスで生じる廃液の膜処理技術による再利用と一口ポーションなどの製品化について提案があった。



パネルディスカッションでは、オブザーバーを含む参加者の多くが「多様性が生み出す可能性」についてさまざまな学びを得た体験が共有された。議論が暗礁に乗り上げたことで再考できたこと、自分とは異なる分野の出身者と議論を交わすことによって生まれた化学反応など、率直な感想が伝えられる一方で、オーディエンス参加者からも経験に基づく質問が数多く寄せられ、闊達な意見交換が繰り広げられた。その後、各企業・団体の代表者から総評を得て、履修生に限らずオブザーバー参加者にも、収穫のあったワークショップであったこと、そして来年度以降の継続を望む声が高いことを確認しながら閉会に至った。

6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム (The 14th Nano Bio Info Chemistry Symposium)

融合領域研究の英語による口頭発表で構成するナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウムを開催している。英語による口頭発表をした学生のうち、一般参加者の投票により、The Best Student Presentation Award と Student Award を授与している。

開催日：2017(平成29)年12月15日(金), 16日(土)

場所：広島大学学士会館レセプションホール(東広島キャンパス)

一般講演：25件 (内:学生の発表21)

参加者：124名

学生賞：参加者(学生は除く)の投票により、上位2名にThe Best Student Presentation Awardが、4名にStudent Awardが授与された。

The Best Student Presentation Award(2名)

Yuuki Onitsuka (D2)

“Detection of Electronically Excited NH_2 product in the Ultraviolet Photodissociation of Methylamine”

Shogo Tendo (M1)

“Detection of Atomic Oxygen $\text{O}(^3\text{P})$ with Vacuum Ultraviolet Emission Subsequent to Two-Photon Excitation

Student Award(4名)

Hiroyuki Nakata (M2)

“Photoelimination dynamics study of tricarbonylnitrosylcobalt by analyzing the motion of eliminated ligands”

Shin-nosuke Kinoshita (M2)

“Study of nonradiative decay process and *trans* \rightarrow *cis* isomerization of *para*-, *meta*-, *ortho*-hydroxy methylcinnamate”

Ayaka Sera (D3)

“Pressure induced quantum phase transitions in $S = 1/2$ chiral triangular lattice antiferromagnet CsCuCl_3 ”

Kairi Yamato (M1)

“Photochemical properties of near-infrared emitting graphene quantum dots possessing perimidine moieties”

7. コンソーシアム人材セミナー

主に企業の研究開発部署で活躍している方々や人事担当者から、最新の研究開発動向や人材活用の状況を学ぶことを目的としている。

第36回 in 広島	2017年 4月19日(水) 14:35～17:05	グローバル化が進む中、企業が求める研究者像とは	三菱重工業(株) 執行役員フェロー 総合研究所 副所長 徳永 節男 氏
第37回 in 広島	2017年 5月10日(水) 14:35～17:05	将来の多軸創出を目指して	日東電工(株) 専務執行役員 CIO 経営インフラ統括部門長 表 利彦 氏
第38回 in 広島	2017年 5月31日(水) 14:35～17:05	ICT企業でイノベーションを実践する人材～研究成果の社会実装に向けた事例から～	(株) 富士通研究所 応用研究センター イノベーション推進室 室長 菅坂 玉美 氏
第39回 in 広島	2017年 6月14日(水) 14:35～17:05	『大正製薬』を一例に、製薬業界とその職種を理解しよう！	大正製薬(株) 研究総務部 元・人事 労務グループマネージャー 大澤 浩一 氏
第40回 in 広島	2017年 7月5日(水) 14:35～17:05	未来へつながる新しい「食の価値創造」のために	サッポロホールディングス(株) グループ R&D 本部 価値創造フロンティア研究所長 土屋 陽一 氏
第41回 in 広島	2017年 10月18日(水) 14:35～17:05	特定国立研究開発法人産業技術総合研究所における研究開発	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 機能化学研究部門 副研究部門長 吉田 勝 氏
第42回 in 広島	2017年 10月30日(月) 14:35～17:05	期待値上昇中☆ イノベーションマネージャーという仕事	一般社団法人 日本イノベーション マネージャー協会 代表理事 福田 稔 氏
第43回 in 徳島	2017年 11月15日(水) 16:20～17:50	求む！研究者のパートナー ～大学の高度専門職員という道～	沖縄科学技術大学院大学 横山 裕矢 氏 広島大学学術室研究企画室 岡本 拓士 氏
第44回 in 広島	2017年 11月8日(水) 14:35～17:05	研究者のための知財業界入門ー研究者を離れて研究にかかわる生き方ー	特許業務法人 前田特許事務所 弁理士 長谷川 雅典 氏
第45回 in 広島	2017年 11月29日(水) 14:35～17:05	スタートアップベンチャの創業と挑戦について～世界初の個性を学習するパートナーロボット「unibo」の創業を題材に～	ユニロボット(株) 代表取締役 酒井 拓 氏
第46回 in 広島	2017年 12月13日(水) 14:35～17:05	大学院での学びとベネッセでの調査研究・事業活動とのつながりについて	ベネッセ教育総合研究所 研究員 岡部 悟志 氏
第47回 in 広島	2018年 1月17日(水) 14:35～17:05	JST ご紹介 ～事業・業務内容及びJSTが求める人材像～	国立研究開発法人科学技術振興機構 知識基盤情報部長 小賀坂 康志 氏
第48回 in 徳島	2018年 1月26日(金) 18:00～19:30	「低炭素社会の実現に向けて～電池の役割～」	Amaz 技術コンサルティング合同会社・代表 雨堤 徹 氏

第49回 in 山口	2018年 1月25日(木) 16:10~17:40	「ちきゅう」の挑戦 -未踏の深部へ-	国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)担当役 小林 照明 氏
第50回 in 広島	2018年 1月31日(水) 14:35~17:05	広島の化学素材メーカー 「戸田工業」の活動紹介 ~求める人材と育成~	戸田工業(株)創造本部 機能性微粒子開発グループサブリーダー 高橋 真司 氏
第51回 in 徳島	2018年 3月14日(水) 18:00~19:30	「体験的リーダーシップ育成論」 ~IoT時代にこそ、信頼度の高いマネジメントシステムを~	静岡産業大学経営学部/大阪市立大学 非常勤講師 寺井 康晴 氏
第52回 in 徳島	2018年 3月26日(月) 14:30~17:00	特別研究員説明会	日本学術振興会

○第36回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成29年4月19日(水)14:35~17:05
場所:広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)
参加者数:32名

概要:三菱重工グループは、エネルギー・環境・交通・社会インフラ・防衛など約500種類近い製品をグローバルに展開する総合機械メーカーです。総合研究所では、それら多数の製品に関連する技術を効率的に開発するため、各製品に共通な基盤技術(プラットフォーム技術)や先進的なキー技術などの開発を、自社だけでなく、全世界の主要大学や研究機関とのオープンイノベーションで進めています。この様な、大学とは異なる研究環境を紹介すると共に、具体的な製品開発事例を通じて、企業での研究の進め方や企業が必要とする研究者像について説明します。

HIRAKU 株式会社
大学研究支援センター
第36回コンソーシアム人材セミナー in 広島

グローバル化が進む中、
企業が求める研究者像とは
【三菱重工株式会社】

平成29年
4月19日(水)
14:35~17:05

講師:徳永 節男 氏
(三菱重工株式会社執行役員・グローバル総合研究所 所長)

本部棟2階会議室

申込締切:4月17日(月)

○第37回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成29年5月10日(水) 14:35~17:05
場所:広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)
参加者数:51名

概要:Nittoは、企業文化の一つである顧客密着による三新活動といった行動指針やグローバルニッチトップを基本とした経営戦略をベースにこれまで成長してきた。今後は、こうしたNittoの特徴や強みをさらに活かした上で、各ステークホルダーの方々に、今まで以上に必要といただける企業を目指さなければならない。社内的には将来の経営のあるべき姿を充分理解した上で技術を駆使し、将来のサステナブルグローバル企業になるための着実な活動を加速させる必要がある。将来目指す姿は、企業を取り巻く環境の中でいつも重要で必要不可欠と感じていただけるブランド企業である。世界で信頼され、お客様への継続的価値提供が可能なブランド企業になるために必要な体制・スキル・人材について紹介する。

HIRAKU 株式会社
大学研究支援センター
第37回コンソーシアム人材セミナー in 広島

将来の多軸創出を目指して
【日東電工株式会社】

平成29年
5月10日(水)
14:35~17:05

講師:櫻 利彦 氏
(日東電工株式会社専務執行役員/経営インフラ推進部門長)

本部棟2階会議室

申込締切:5月9日(火)

○第38回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成29年5月31日(水) 14:35~17:05

場所:広島大学 工学研究科B114講義室 (東広島キャンパス)

参加者数:29名

概要:富士通研究所は富士通グループのR&Dの中核となる組織で、先端材料、次世代素子、ネットワーク、クラウドシステム、Mobile, IoT, Big Data, AI, SecurityなどICTに関わる幅広い分野の研究開発に取り組んでいます。企業の研究とは何か、どのように進めるのか、それがビジネスにどう結びついていくのか、という事例を紹介し、大学研究との違いとして、ビジネスモデルの変化が早い時代に求められる研究者の能力や働き方の改革など、イノベーションを実践するために必要な人間力を考え、みなさんの働き方の将来像を議論しましょう。

○第39回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成29年6月14日(水) 14:35~17:05

場所:広島大学 理学研究科大会議室 (東広島キャンパス)

参加者数:63名

概要:私たち大正製薬グループは、主としてOTC医薬品を扱うセルフメディケーション事業と、医療用医薬品(いわゆる処方箋薬)を扱う医薬事業の2つの事業を両輪として展開する総合医薬品メーカーです。弊社ではこの両医薬品の研究開発に携わっていますので、製薬企業を知っていただくには最適な事例と思います。その他、セルフメディケーション事業の中ではOTC医薬品以外にも、食品や化粧品の商品開発にも取り組んでいます。皆さんには弊社紹介を通じて、製薬業界の理解の一助となれば幸いです。内容としては業界・会社・職種の各紹介の他、研究事例や大学研究者との違い、などの話題を予定しています。

○第40回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成29年7月5日(水) 14:35~17:05

場所:広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)

参加者数:54名

概要:1876年のビール製造に端を発したサッポログループは、おかげさまで2016年に創業140周年を迎えたことから、10年後の2026年、創業150周年に向けた新たな長期経営ビジョン「SPEED150」を策定しました。グループの成長の源泉は、創業以来140年の歴史の中で培われた「ブランド資産」にあると改めて認識した上で、グループのコア事業を『酒』『食』『飲』の3分野と位置づけ、不動産事業とともにグループ保有のブランドを育成・強化し、日本国内のみならず、世界に潤いと豊かさをご提供できる企業となることを目指します。「ブランド資産」の形成に研究開発が果たしてきた役割と、未来へつながる新しい「食の価値創造」を推進するための取り組みについてご紹介します。

○第41回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成29年10月18日(水) 14:35~17:05
 場所:広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)
 参加者数:43名

概要:現在日本国内には、「特定国立研究開発法人」と呼ばれる研究機関が三つ存在します。私が所属する「産業技術総合研究所」(産総研)はその一つであり、経済産業省を所管官庁とする国内最大規模の研究機関の一つです。このセミナーでは、産総研の概要と、産総研で行っている種々の研究開発について、私自身の研究を中心に紹介させていただきます。また、アメリカでの留学や内閣府への出向経験など、産総研以外の場所での経験から得た私なりの気づきについてもお話しさせていただく予定です。これらを通じて、大学や企業とは異なる組織としての産総研における、研究者像の一端を紹介させていただきます。



「FA専攻内閣府特別研究員(フェロー)として産総研のフェローとして活動して経験、産総研での研究開発の経験についてお話しします。」

申込み先
 〒100-8302 東京都千代田区千代田 4-1-8 産総研総務課
 E-Mail: wakatsuki@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 085-424-4213
 URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/ir/>

申込み先(問い合わせ先)
 広島大学グローバルイノベーションセンター(産総研)事務局
 E-Mail: wakatsuki@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 085-424-4213
 URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/gic/>

○第42回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成29年10月30日(月) 14:35~17:05
 場所:広島大学 学生プラザ4F多目的室(東広島キャンパス)
 参加者数:35名

概要:社会の中で新たな価値を見つけ、イノベーションの実現に向けて取り組む人材をイノベーターといいます。しかし、多くの場合、いろいろな課題や制約要因を抱えています。そのため、最近では、地域や組織のリーダー、経営者と気持ちを合わせて、経営資源の配分や調達を考え、土壌を作り、イノベーターと伴に走る人材に注目が集まっています。それが、「イノベーションマネージャー」です。彼らの活動や実態を紹介し、その「イノベーション・マネジメント」の仕事と役割の重要性について一緒に考えてみたいと思います。なお、シュンペーター、ドラッカーをはじめ「イノベーション」の定義や解説は数多くありますが、主宰している一般社団法人 日本イノベーションマネージャー協会では、「新しい収益の柱をたてること」としています。



申込み先
 〒100-8302 東京都千代田区千代田 4-1-8 産総研総務課
 E-Mail: wakatsuki@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 085-424-4213
 URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/ir/>

申込み先(問い合わせ先)
 広島大学グローバルイノベーションセンター(産総研)事務局
 E-Mail: wakatsuki@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 085-424-4213
 URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/gic/>

○第43回コンソーシアム人材セミナーin徳島

日時:平成29年11月15日(水) 16:20~17:50
 場所:広島大学 学生プラザ4F多目的室(東広島キャンパス)
 参加者数:36名

概要:大学の博士課程から、研究職、教職とは違う道へ——大学の高度専門職員を選択された、沖縄科学技術大学院大学学園と広島大学のお二人の講演となります。大学院時代に考えていた将来の事なども含めご講演頂きます。



申込み先
 〒100-8302 東京都千代田区千代田 4-1-8 産総研総務課
 E-Mail: wakatsuki@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 085-424-4213
 URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/ir/>

申込み先(問い合わせ先)
 広島大学グローバルイノベーションセンター(産総研)事務局
 E-Mail: wakatsuki@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 085-424-4213
 URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/gic/>

○第44回コンソーシアム人材セミナーin 広島

日時:平成29年11月8日(水) 14:35~17:05
 場所:広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)
 参加者数:34名

概要:特許事務所は、特許の出願をしてくれる所、弁理士は、よくわからない難解な文書を書いてくれる人というおぼろげなイメージを、多くの人が持っていると思います。しかし、特許事務所において弁理士が実際にどのように仕事をしているのかを知る機会はなかなか無いと思います。今回は、具体例を挙げて、特許事務所と弁理士の仕事を紹介します。また、弁理士として仕事をするために求められるスキルが、どのような点で研究者と共通しているのか、また異なっているのかということをお話します。最後に、弁理士試験に合格するためにはどのような学習が必要かという点についても触れます。

○第45回コンソーシアム人材セミナーin 広島

日時:平成29年11月29日(水) 14:35~17:05
 場所:広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)
 参加者数:16名

概要:5年で85%が倒産するといわれているベンチャーだが、日本の産業界において、ベンチャー企業に求められる役割・期待は年々益々大きくなっている。本講演では、テック系のAIロボットベンチャーが、どのような可能性を持ち、産業界の期待を背負い、日本の有数の企業から出資を受け成長していったかの過程と、人間の持つ可能性の持つ可能性や、挑戦する意義について、実ストーリーを踏まえて講演する。

○第46回コンソーシアム人材セミナーin 広島

日時:平成29年12月13日(水) 14:35~17:05
 場所:広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)
 参加者数:31名

概要:大学院での学びは、企業で働くこととどのように関連しているのでしょうか。大学院では学生として修士修了まで、そして社会人学生として博士修了まで学び、一方で、企業(ベネッセ)では現在所属する研究開発の仕事のほか、企画編集や経営スタッフとして働いてきた私の経験をもとに、お話しさせて頂く予定です。専門性の高い大学院生・ポスドクの方々に、将来のキャリアの可能性を少し広げて考えてみる機会にしていれば幸いです。大学院への進学を希望している、あるいは大学院での学びに関心がある学部生の参加も歓迎です。

○第47回コンソーシアム人材セミナーin 広島

日時:平成30年1月17日(水) 14:35~17:05
 場所:広島大学 学生プラザ4F多目的室(東広島キャンパス)
 参加者数:23名

概要:国立研究開発法人科学技術振興機構は、1950年代に設立された2つの組織を母体として、特殊法人を経て、2003年に独立行政法人化され現在の形に至っています。その業務は、研究開発戦略立案、研究開発ファンディング、情報基盤の整備、科学コミュニケーション、次世代人材育成と多岐にわたっています。本公演では、講師の経験にも基づき、その事業・業務の概要と、働く人材のあらましをお伝えします。皆様のキャリア形成検討の一助になれば幸いです。

○第48回コンソーシアム人材セミナーin 徳島

日時:平成30年1月17日(水) 14:35~17:05
 場所:広島大学 学生プラザ 4F 多目的室(東広島キャンパス)
 参加者数: 38名

概要:太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーによる発電はこの5年間で急速に普及してきました。不安定な電力の有効活用には蓄電システムの導入が不可欠であり、エネルギーの地産地消にも電池は必要となってきます。また、今年になって欧州の国や自動車メーカーが自動車の電動化へ向けて大きく舵を切ってきました。講演では、パリ協定を順守するために、どの様に低炭素社会を目指すべきなのかについて、再生可能エネルギーの活用事例や電気自動車の歴史や方向性等で電池の果たすべき役割を経験談や私見を交えて解説することで、その課題と提案について発表致します。

○第49回コンソーシアム人材セミナーin 山口

日時:平成30年1月25日(木) 16:10~17:40
 場所:山口大学 常盤キャンパス D12講義室
 参加者数: 24名

概要:JAMSTECが所有する地球深部探査船「ちきゅう」は2005年に建造を終え、現在、運用11年を迎えております。その仕様は、総トン数5万7千トン、5万馬力の世界最大の科学掘削船です。講演では「ちきゅう」のプロジェクトやプロジェクトに関係する方々、遭遇した数多くの困難と挑戦と、そこに立ち向かうエンジニア・マネジャーの姿をご紹介します。博士課程の皆さんに、プロジェクトの進め方、研究者の生き方についてご参考になれば幸いです。

○第50回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成30年1月31日(水) 14:35~17:05

場所:広島大学 学生プラザ4F多目的室(東広島キャンパス)

参加者数:24名

概要:創業190年を超える当社は、広島県に本社を構え、広島県及び山口県に工場を持つ酸化鉄を中心とした化学素材メーカーです。当社の製品は、自動車、複写機、プリンター、家電・通信機器、化粧品などの材料として、私たちの身の回りで多く使われています。当社の研究部門では、お客様のニーズに沿った商品をご提供するため、日々お客様のお声を頂戴しながら、開発活動を行っております。今回の講演では、実際の研究内容をご紹介させて頂き、当社が求める人物像についてご説明させて頂きます。

○第51回コンソーシアム人材セミナーin徳島

日時:平成30年3月14日(水) 18:00~19:30

場所:徳島大学常三島キャンパス 産学官連携プラザ3階 日亜ホール

概要:寺井康晴氏は、生産プロセスの改革や改善、デジタルエンジニアリングや企業情報システムの構築、さらに労働組合の委員長や取締役・他社監査役の経験をもとに、平成22年度より「徳島大学地域産業人材育成講座」の講師を務めてきました。この8年の中でもデジタル技術やグローバル化の進展は著しく、「IoT やインターネット」という言葉や「働き方改革」という言葉もよく聞かれるようになってきました。しかし、「企業の存立基盤である顧客満足を実現する」ためには、企業戦略の構築は勿論、現場だけでなく事務・営業部門を含む「顧客に至る全サプライチェーンの信頼度を高める」ことが欠かせないと実感しております。

○第52回コンソーシアム人材セミナーin 徳島

日時:平成30年3月26日(月) 14:30~17:00

場所:広島大学 学生プラザ4F多目的室(東広島キャンパス)

概要:特別研究員制度は、大学院博士課程在学者及び大学院博士課程修了者等で、我が国の学術研究の将来を担う優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度です。これから、研究者を目指す学生、特別研究員への応募を考えられている大学院生、研究者、ご関心のある方は奮ってご参加ください。

8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組み

8-1. ウェブサイト

本事業の取組内容は、オリジナルウェブサイト HIRAKU(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/>)を構築し、イベント参加者募集や公募などのお知らせも随時掲載している。そこには、より詳細な内容や連携機関の情報を掲載している。また、若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)にリンクしている。



広島大学グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

URL: https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr



未来を拓く地方協奏プラットフォーム
科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

この度、文部科学省の平成26年度科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」に、山口大学が共同実施機関として採択されました。
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」をテーマに、広島大学を代表機関として、共同実施機関に山口大学、徳島大学、連携機関には中国の国立大学、公立大学、私立大学および多くの企業が参画して実施します。



長州五傑の像 (山口大学吉田キャンパス)

→ トピックス一覧

トピックス

- 2018/02/07 [「第49回コンソーシアム人材セミナーin山口」を開催しました](#)
- 2018/01/29 [コンソーシアム教員の公募 \(循環環境工学\)](#)
- 2018/01/17 [プレゼンテーションセミナー「達人から学ぶ研究プレゼンテーションの極意」の開催について](#)
- 2018/01/09 [「未来を拓く地方協奏プラットフォーム第6回成果報告会」開催について](#)
- 2018/01/09 [第49回コンソーシアム人材セミナーin山口 \(講師=海洋研究開発機構\) 開催について](#)

徳島大学 研究支援・産官学連携センター
Center for Research Administration & Collaboration

トップ センターの紹介 学外の方へ 学内の方へ イベント・広報

徳島大学研究支援・産官学連携センター > 未来を拓く地方協奏プラットフォーム(HIRAKU)

未来を拓く地方協奏プラットフォーム
科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業「次世代研究者育成プログラム」
中国・韓国地方を中心とした次世代研究者育成プログラム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の情報を発信しています。

HIRAKUトップ プログラム概要 イベント 活動報告 公募情報 電子研究費の取付 企業の方へ

2018年2月 月 予定リスト

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	2月1日	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	3

代表機関: 広島大学のイベントカレンダー

8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU

HIRAKU Vol.1 (平成 27 年 3 月発行)
 博士課程後期を知る読本

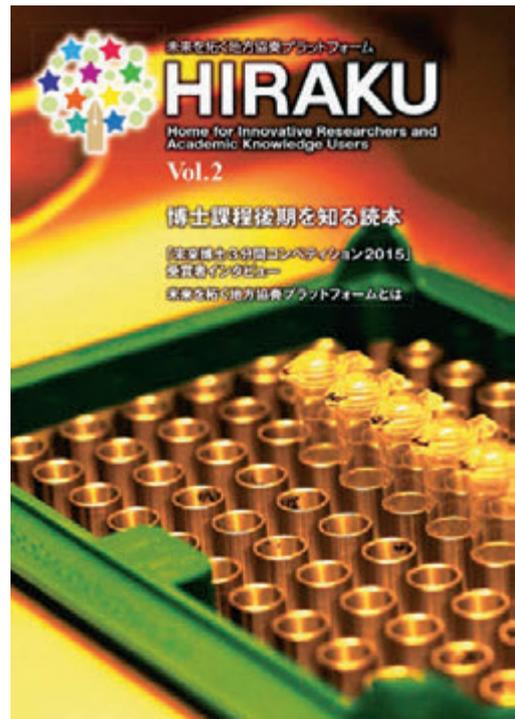
- ・次世代研究者インタビュー
- ・博士課程後期研究者 座談会
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol.2 (平成 28 年 3 月 発行)

博士課程後期を知る読本

- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2015」
受賞者インタビュー
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol.3 (平成 29 年 3 月発行)

博士課程後期を知る読本

- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2016」
受賞者インタビュー
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol.4 (平成 30 年 3 月発行)

博士課程後期を知る読本

- ・最先端研究者インタビュー
- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2017」

受賞者インタビュー

- ・大学を取り巻く研究環境について
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



8-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI

HAKUSHI

博士課程後期を知ろう

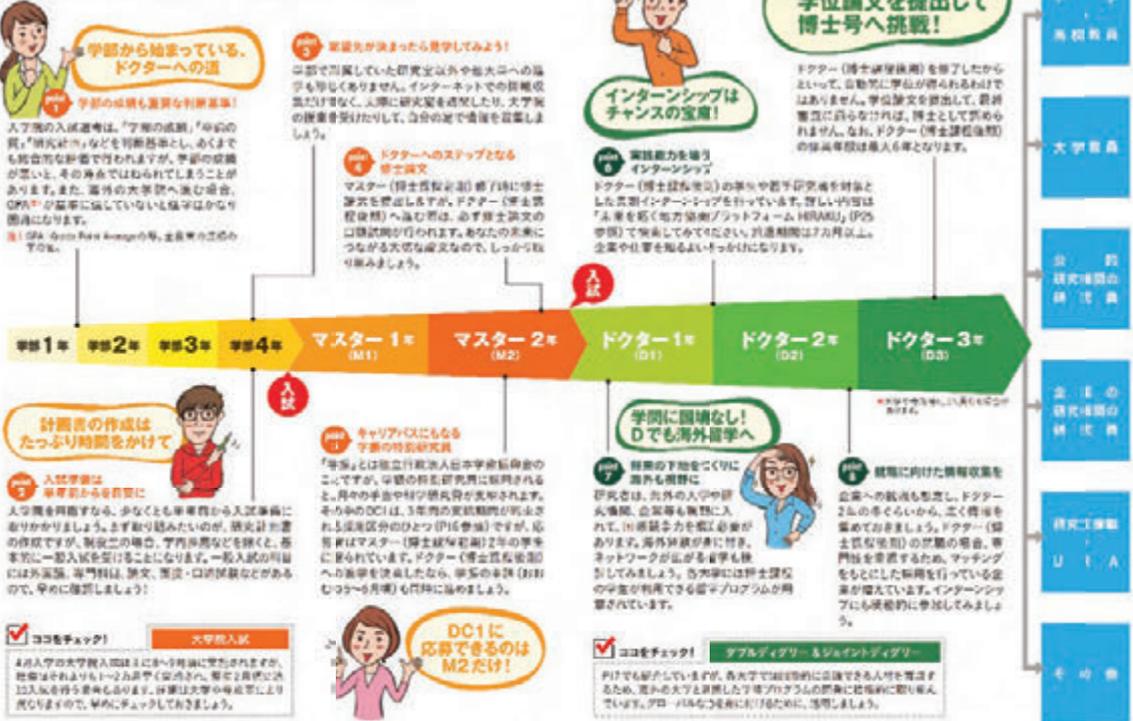


HAKUSHI 2015年10月版

博士課程後期への進学は、あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

- ・進学フロー
- ・研究者インタビュー
- ・学生インタビュー
- ・あなたの疑問にお答えします!!

研究者となるチャンスを逃さないためには、十分な情報収集と早めの準備が必要です。下記のフローチャートを参考に、研究者としての未来を切り拓きましょう。



HAKUSHI

博士課程後期を知ろう



HAKUSHI 2018年3月版

博士課程後期への進学は、あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

- ・進学フロー
- ・研究者インタビュー
- ・対談
- ・HAKUSHI の先
- ・コラム
- ・HIRKU-PF
- ・あなたの疑問にお答えします!!

研究者となるチャンスをつかむためには、十分な情報収集と早めの準備が必要です。下記のフローチャートを参考に、研究者としての未来を切り拓きましょう。



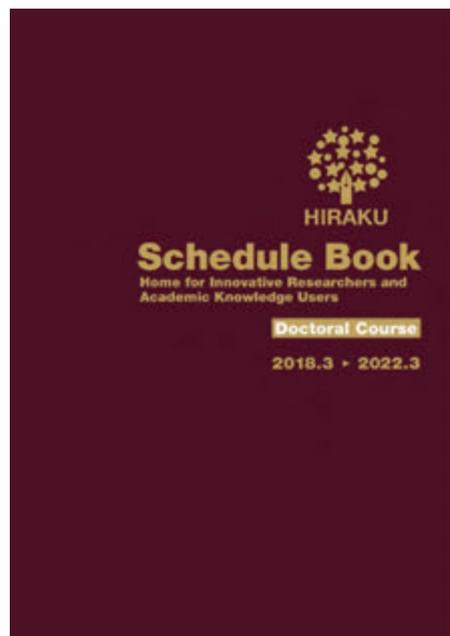
8-4 4年手帳

博士課程後期の心得，進路についてのプランニング，大学で行われている学生支援等について掲載している。博士課程後期の時間を有意義に過ごすために必要な内容を盛り込んだ手帳である。共同実施機関，連携機関の新D1全員に配布している。

Doctoral Course Schedule Book 2018.3 ⇒ 2022.3

(平成30年3月発行)

- ・2018年3月から2022年3月までのカレンダー・スケジュール帳
- ・博士課程後期の心得
- ・博士課程後期の学生支援
- ・税金・確定申告・健康保険・年金



9. 若手研究人材のキャリアスタート支援

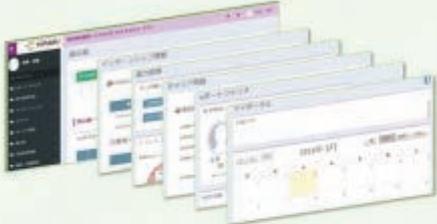
9-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF

「若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)」は、本事業の基幹 IT システムとして、いろいろな「あつまる」・「つながる」・「まじわる」機能を通じて、博士課程学生を含む若手研究者が社会とのつながりを深め、新たな出会いや気づきの中で自らの未来を拓くことができるように構築し、平成 28 年(2016 年)3 月に運用を開始した。

若手研究者ポートフォリオ (HIRAKU-PF) とは

若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF は、未来を拓く地方協業プラットフォーム (HIRAKU) の展開を支援する基幹 IT システムとして、2016 年 3 月に運用を開始しました。

博士課程学生やポストドクター等若手研究者向けの能力開発、獲得した能力の指標化、若手研究者や研究シーズの検索機能などを通して、次世代のイノベーションを担う人材を支援します。さらに、所属や分野を超えたつながりを形成し、人材や技術の活発かつ効率的な流動を促します。



[HIRAKU-PF 利用登録のご案内]

1. まずは <http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku> へアクセス!
2. 「HIRAKU-PF」のタブをクリック!
3. 「ユーザー登録」からメールアドレスで仮登録!*
4. メールに添付された本登録用 URL へアクセスしてユーザー登録!
5. メールアドレスと登録したパスワードでログイン!

*ここから登録できるのは、以下のHIRAKU連携機関に所属し、所属機関のドメインの入ったメールアドレスを利用している者に限りです。
 広島大学、山口大学、徳島大学、岡山大学、鳥取大学、島根大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、徳島教育大学、経産大学、国立広島大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学 (2016年3月現在)

登録できない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

HIRAKU (2016年3月現在) 未来を拓く地方協業プラットフォーム運営事務局 (広島大学グローバルキャリアデザインセンター内)
 TEL : 082-434-2038 FAX : hiraku@hiroshima-u.ac.jp
 URL : <http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/>

博士課程学生・若手研究者の皆様へ

あつまる まじわる つながる

HIRAKU-PF

若手研究者ポートフォリオ (HIRAKU-PF)
 2016年 3月 運用開始

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku>



HIRAKU 未来を拓く地方協業プラットフォーム
 Hiroshima University Platform for Sustainable Relationships and Resilient, Knowledge-based Society

2016年3月発行

(導入時配布チラシ)

<HIRAKU-PF が網羅する主な機能>



(1)若手研究者も企業等のPR情報発信および検索 — eポートフォリオ機能 検索機能

HIRAKUに参画する多くの国公立大学の博士課程学生・若手研究者，幅広い連携企業・公的機関がユーザ登録することにより利用可能となる。ユーザとして付与されたアカウントを基にeポートフォリオを作成し，若手研究者は自分のプロフィールや研究業績，PR動画やファイル，所属研究室が公開するSNSなどを，連携機関は機関概要，求める博士人材，活躍している博士人材などを登録し，HIRAKU-PF内で相互にアピールすることができる。若手研究者については氏名，所属機関やキーワードを利用して検索することができ，eポートフォリオを閲覧することができる。公開を希望する研究者は，自分のeポートフォリオをネット上に公開することも可能であり，全世界に向けて発信することができる。



(若手研究者)

eポートフォリオを作成し，基本情報に加え，自己アピール文，研究活動など積極的にPRできる。



YouTubeやmp4ファイルなどのPR動画を埋め込みで掲載することができる。



Facebook ページや Twitter, ブログ など SNS 情報を埋め込みで表示させることができる。

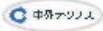


検索条件を入力・選択することにより、登録されている若手研究者を検索し、eポートフォリオを閲覧することができる。(ネット公開設定している研究者であれば、外部検索エンジンでも検索可能)



閲覧した e ポートフォリオから、直接システム内でメッセージを送信することができる。

基本情報(Profile)

 **企業・団体(Organization)**
中外テクノス株式会社/Chugai Technos Corporation

部署(Department)
環境事業本部 取締役事業本部長 村岡 裕彦

機関紹介・PR>About us

事業案内
Business

「スマートな技術でスマートな未来を」
Smart technology, smart future

電機・機械・情報・物理・化学・生物の各部門からなる中外テクノスの技術を融合し、多様なニーズにスマート(効果的・知

専門調査 | Investigation

環境、建設、工業あらゆる産業分野において、先進の調査技術を駆使した信頼性の高い調査データをご提供します。

- 環境調査・分析
- 環境微生物解析
- 環境装置性能試験
- 省エネ診断
- 構造物調査

(連携企業・公的機関)

連携企業・公的機関の e ポートフォリオでは、各機関の概要を掲載できる。既存の HP があれば、画像やリンクなどもそのまま添付可能。

活躍中の博士人材(Doctorate Holders)

キラキラした目の子どもたちをもっと増やしたい
花里 美紗穂

全員が活かすためのに頑張りたい
山本 修弘

研究室から外へ出て出た
飯田 里子

求める人材(Expected Talents)

我々は高い夢と志を持って「ブレークスルー」に飽くなく挑戦をする人達と共創して、感動と夢

“ブレークスルー”とは、
マツダにしかできないことを、考え抜く。
マツダだからできることを、やり抜く。
そこに、世界を牽引する走りが生まれる。

美しく爽快な走りを生み出すには、パワフルなエンジンの開発が必要となり、一方で、環境に優しいクルマを生み出すには燃費性能を突き詰めなければならない。一般論としては、「相反する2つの最適なバランスを求めよう」という妥協が、技術の常識である。これに対しマツダは、飽くまでも常識にとらわれず、高い次元で両立させる選択を断行する。これが「ブレークスルー」の発想だ。バランスポイントを決めることは、ブレークスルーしないことと同じ。

マツダならではの、自由に熟考を重ねるチャレンジスピリットから、世界に先がけたワクワクする走り、心奪われる美しいクルマが生み出されていく。その一点にしか、我々は夢を見いださない。

■シニアエンジニアインタビュー
クルママツダで世界に貢献する。
平和の街・広島でマツダの精神をカタチに。
ロードスター 主筆/山本修弘

1989年の誕生以来、世界中の人々から愛されているマツダ ロードスター。現在も、より多くの感動と走る喜びを与えるべく進化を続けている。その主筆である山本 修弘がエンジニアを目指した自身の原点とマツダに流れるスピリット。そして広島での開発にこだわる理由や次代を担う若手への思いを語る。

マツダ(株)HPへリンク
<http://www.mazda.com/ja/careers/newgraduate/interview/yamamoto/>

求める人材や実際に活躍している人材など、博士人材に特化して情報発信ができる。

(2) シーズ・ニーズ情報の発信・閲覧・交流促進 - シーズ・ニーズ機能

連携機関やシニア教員は、研究技術、研究人材などの「ニーズ」を登録し、全研究者ユーザに対して発信できる。若手研究者や若手教員は、自分たちが持つ研究技術やスキルを「シーズ」として登録し発信できる。それぞれが選択した公開先に含まれるユーザは、ログイン後に表示されるトップページ(ポータル)画面において、シーズ・ニーズの一覧情報を確認し、関心を持った場合には表明することができる。情報を登録したユーザは、関心を表明したユーザを招待して掲示板を作成し、コミュニケーションを開始することもできる。



ポータル画面上に登録したシーズやニーズが掲示され、閲覧者は☆マークをクリックすることで関心を表明することができる。

(3) インターンシップ/求人/イベント情報の発信・入手 - **インターンシップ機能** **イベント機能**
博士課程学生・若手研究者向けに集約されたインターンシップや求人情報などの情報が閲覧できるだけでなく、応募や必要書類のアップロードも HIRAKU-PF 上から行うことができる。HIRAKU-PF 上から連携企業/公的機関へ直接質問も可能である。若手研究者からの提案が新しいインターンシップや共同研究につながる流れも期待される。

(4) キャリア相談の依頼および面談実績の管理 - **キャリア相談機能** **支援情報機能**
キャリア相談やインターンシップ等の相談も、HIRAKU-PF を通じて依頼・設定可能であり、過去の相談状況を蓄積できる。また、各種支援情報も提供される。

(5) ユーザ同士の気軽なコミュニケーション - **掲示板機能** **メッセージ機能**
(1)で前述のとおり、ユーザは検索後に閲覧した他ユーザの e ポートフォリオからメッセージ機能を使って直接連絡を取ることができる。また掲示板機能もあり、博士課程学生・若手研究者同士が掲示板グループを作成して若手研究者主体のイベント運営や情報交換などに利用したり、連携機関と若手研究者がシーズ・ニーズ機能などを通じて掲示板グループを作成し、共同研究のき

かけ作りに利用したり、研修やワークショップなどを通じてできたワーキンググループで掲示板グループを作成し課題・演習のフォローに活用したりすることができる。

★ イノベーション実践 デーマン2の件7 items(英語)2件9 items

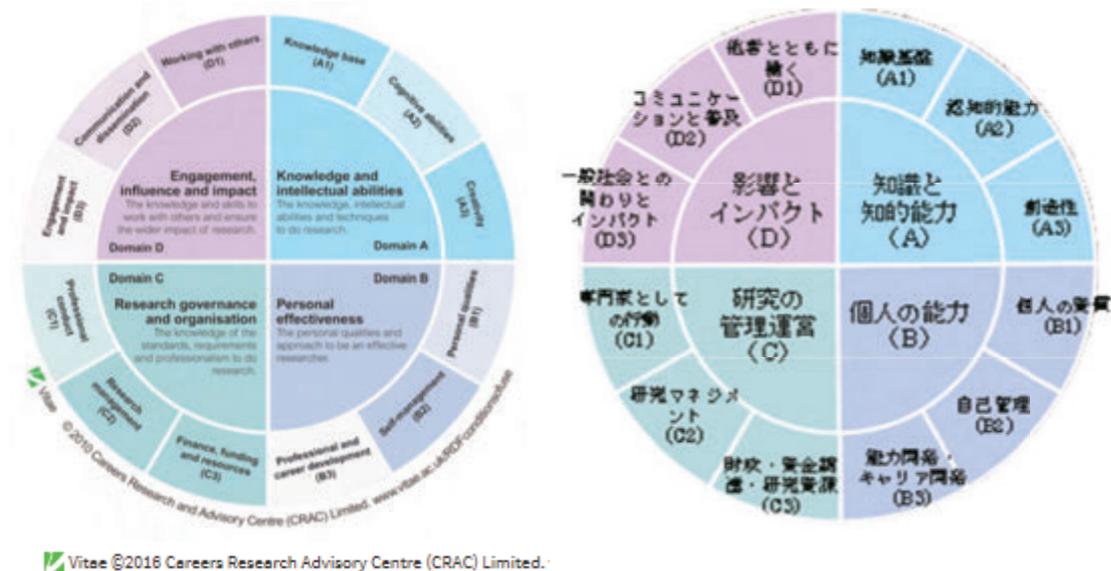
タイトル(Title)	掲載者(Pushed by)	件数(No. of Posts)	最終更新日時(Last Update)
10/27 フォームワーク 写真共有	立花 敬	34	2017/11/25 09:42
10/27(木) 第4回10/27 演習開始前 告知案内	WRIKU 運営協議会事務局 / WRIKU Operating Coun. of Office	1	2017/11/28 18:07
第4回ワークショップを振り返って	イノベーション実践推進室 主 1	9	2017/11/24 17:06
広報についてお願い	WRIKU 運営協議会事務局 / WRIKU Operating Coun. of Office	2	2017/11/27 12:53
第4回ワークショップ振り返り おまじ 動物取扱業務について	川崎 真紀	9	2017/11/23 22:02
最新発表スライド	WRIKU 運営協議会事務局 / WRIKU Operating Coun. of Office	1	2017/11/28 15:08
広島県立大学 動物取扱のまじおまじ コメント共有	WRIKU 運営協議会事務局 / WRIKU Operating Coun. of Office	1	2017/11/28 16:04

平成 29 年開講「第 2 回課題提案型ワークショップ（広島大学大学院共通科目「イノベーション演習）」では、履修生と参加企業からなるワーキンググループおよび各グループの担当教員やアシスタントで掲示板を作成し、情報共有や演習時間外のコミュニケーションに活用した。

(5)研究者として能力チェック & 講座情報の入手・能力開発支援機能

高等教育機関、研究機関の博士研究者や博士課程在籍者の自己啓発、専門的能力開発及びキャリア開発を支援する英国の非営利の全国的ネットワーク組織 Vitae が作成した研究者の総合的な能力指標，“Researchers Development Framework(RDF)” が組み込まれている。研究者に必要とされる 63 項目の能力について 5 段階のステージで表示しているのので、現状把握や将来の指針として参考にすることができる。自分がどのステージにいるのか自己診断し、その根拠を記録することで、自分の能力を客観的に捉えることができ、さらなる向上を目指して目標を設定することができる。また対象能力を養成することが可能な授業やプログラムを確認し、その参加状況を記録することも可能。自己診断結果は、記録した根拠や設定目標と併せてレポート出力ができる。自分の能力養成状況を定期的に診断して更新し続けることにより、自分の成長状況を時系列で確認することができる。

(Vitae RDF)



詳細項目確認と診断(RDF Descriptor Phases & Assessment): RDF定項目診断(Full RDF Skills)

問題解決力 (Problem-solving)

重要度が低い項目は黄色で、高いものは赤に塗りつぶされています。Please highlight in orange to indicate a low level of skill and in red to indicate a high level of skill.

フェーズ(Phase)			
1	2	3	4
自分の研究における基本テーマを特定し、基本的な研究上の問いと仮説を導く。(Identifies basic themes of own research, formulates basic research questions and hypotheses.)	幅広い研究課題に対して解決策を導き出して適用し、研究が実世界的に分析、解釈している。(Formulates and applies solutions to a range of research problems and effectively analyses and interprets research results.)	研究の新たな動向、課題を問い、広範な課題を特定の、大規模なプロジェクトを立案している。(Identifies new trends, complex questions and broader problems, designs substantial projects. Challenges particular hypotheses and refines them in the light of results.)	自身の理解に大きく貢献することで研究課題によって、従来の思考一般に異議を唱え、研究している。(Adds a research agenda by bringing in general and progress research themes.)

1

自身の理解の程度には自分の理解のレベルを、選択した0-4スケールを適用しない場合は空欄に記入してください。

能力ごとに5段階のステージに分けて、期待される知識・行動・態度などが表示される。自分がどの段階にあるか自己診断する。

アクションプラン(Action Plan) 中項目レベルは任意で設定したアクションプランが反映入力してください。Please fill in your action plan/evidence per sub-domain if you wish to do so. 幅広い課題解決に向けて大規模なプロジェクトを立案できるよう、100関連企業におけるインターンシップに挑戦する(2015年8月まで)

エビデンス(Evidence) 自身の進捗を達成している場合は診断する場合は、その内容を記入してください。入力内容は自己診断レポートにも反映されます。Please fill in the evidence you can be reported in the Self-Assessment Report.

ABCCの研究において、テーマを***に特定し、基本的な研究上の問いと仮説を導き、3分間コンペティション2015において企業賞(2nd)を受賞した。

3分間コンペ2015_最終発表.mp4

報告(Report) 削除(Delete)

保存(Save)

自己診断の根拠(エビデンス), 対象能力を伸ばすためのアクションプランを入力することができる。

能力養成科目/プログラム詳細(Recommended Class/Program Description)

能力養成科目/プログラムの詳細です。一番下までスクロールすると、養成が期待される能力の一覧を確認することができます。the class/program. Scroll down to the bottom to check the full list of RDF skills expected to be developed by taking this class/program.

参加予定記録(Mark to attend) 参加予定取消(Cancel marking)

長期インターンシップ

講師(Instructor)	三須敬幸
所属機関(Univ./Org.)	広島大学(Hiroshima University)
機関内課程コード(Class Code)	85025001
所属部署(Faculty/Dept.)	グローバルキャリアデザインセンター
所属期(Semester/Term)	2016年度
曜日・時間(Day/Period)	集中

対象能力を養成することが可能な講座, プログラムなどが登録されており, 参加・受講を記録していくことができる。

自己評価レポート

評価時点: 2017年3月

氏名: HIRAKU FF D ナオユエー子
 学年・職位: 准副研究員(PO)
 所属: 広島大学 Hiroshima University
 研究科・専攻: HIRAKU-FF ナオユエー子

能力診断結果
 研究基礎能力診断(Starter in Research)
 達成率: 47% (17項目中 8項目達成)

全体目標
 これまでの研究で培った能力をもとに、もともと一般社との関わり、影響力を発揮できるような研究機会にしたい。具体的には、講演などで意見を述べたい。●●になることを目指す。そのために、一般社との接点を増やし、リーダーシップ力とコミュニケーション力を向上させる。
 I aim to become a researcher, more engaged with the public, giving more impact and influence, based on the skills and competencies developed through lectures or any other social opportunities, proactively playing responsible roles on projects, providing coaching and guidance to the less exp. To achieve my goal in 5 years to become (detailed position/job title, etc.), I'll take more public opportunities and develop my leadership, and commu

年間目標
 [前期] 全体目標での「一般社との関わり」のために、「〇影響とインパクト」を増やしたい。セミナーを受講する。具体的には、英語プログラム「英語科半年」(前期)で英語能力を磨く力を得る。
 [後期] インターシップについては、他機関の方との連携も考えたい。一般社との関わりやコミュニケーション力を高めるために、科長様などのアドバイス

能力達成状況

能力診断結果(詳細)

大項目	中項目	アクションプラン	エビデンス	評価	研究基礎能力診断 自己評価	到達 ポイント
A: 学術的知識	A1: 学術的知識	特に必要と思われるA1.1(専門分野の知識)の強化に努め、業績発表の準備、発表機会	A1.0.0の研究において、チームで「○○」に特化した、基本的な研究上の問いに前向きに取り組む	A1.1: 専門分野の知識 (Subject knowledge) A1.4: 情報探知力 (Information seeking)	達成済	2
	A2: 認知的能力	特に必要と思われるA1.1(専門分野の知識)の強化に努め、業績発表の準備、発表機会	○○において、他者に疑問を投げかける(Research)	A2.2: 批判的思考力 (Critical thinking) A2.5: 問題解決力 (Problem solving)	未達成	0
	A3: 創造性	○○において、他者に疑問を投げかける(Research)	○○の執筆をもって研究に取り組んでおり、レビューのフィードバックについて	A2.1: 探究心 (Inquisitiveness) A1.1: 執筆 (Writing)	達成済	2
B: 学術的スキル	B1: 学術的スキル	○○において、他者に疑問を投げかける(Research)	○○の執筆をもって研究に取り組んでおり、レビューのフィードバックについて	B1.4: 指導 (Supervision)	未達成	0

自己診断結果、短期・長期目標、エビデンス、アクションプラン、記録した科目参加履歴などを時系列で遡ってエクセルに出力することができる。

<ユーザ数>

- ・平成 28 年 12 月 31 日時点の 228 件から平成 29 年 12 月 31 日現在で 849 件まで増加。
- ・平成 29 年 12 月 31 日現在のユーザ数の内訳は、若手研究者 849 名(D 716 名, M 40 名, PD 50 名 OB/OG 43 名), 教職員(相談員含む) 48 名, 連携機関 56 機関
- ・平成 29 年 12 月 31 日現在, 若手研究者の所属機関は広島大学 774 名, 山口大学 20 名, 徳島大学 15 名, 左記以外の大学 40 名

9-2. 博士人材キャリア相談室

センターのスタッフ等と一緒に自身のキャリア設計について考え、今後の進路に関する不安を一つ一つ解決する支援をしている。たとえば、就職を希望する博士課程後期学生や若手研究者には、履歴書を作成させ、履歴書の構成や文章の流れなどを指導したり、面接試験にあたっての基本的なマナーや礼儀作法、あるいは企業出身のコーディネーターや幅広い分野の専門家の先生と実践形式の面接指導などを行ったりしている。

【例】キャリア設計相談、進路・進学相談、履歴書作成・面接指導、プレゼンテーション能力の向上

相談日時： 随時(但し、予約優先)

場所： グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成(広島大学学生プラザ 2F)

予約： 「若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)」面談機能を利用して予約すること。

問合せ先: グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

E-MAIL wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp

URL https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr/consultation

平成26年度11月以降相談者延べ数 110名

平成27年度相談者延べ数 213名

平成28年度相談者延べ人数 196名

平成29年度(1月末日現在)相談者延べ人数 142名

10. 代表機関および共同実施機関の独自の取組

10-1. 広島大学独自の取組

10-1-1. 広島大学特別研究員成果報告会

広島大学特別研究員の制度趣旨について説明を行うとともに、自らの研究実績とキャリアパス形成の取組みについて報告を行った。

(1) 第3回広島大学特別研究員成果報告会

日時：平成29年8月7日(月) 15:00~17:00

場所：学生プラザ1F 東側

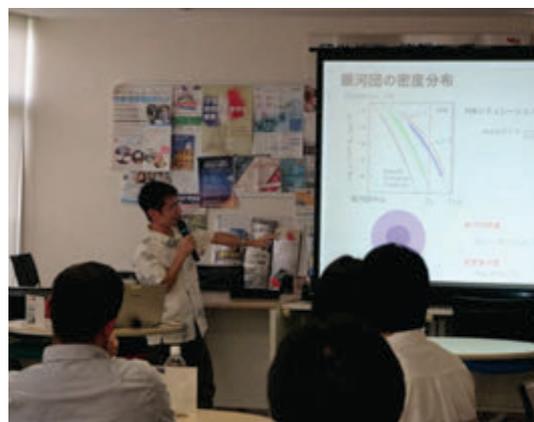
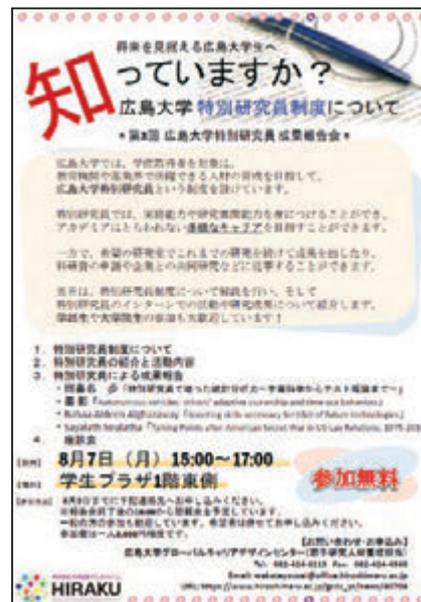
参加者：30名

内容：

- ・特別研究員制度について（グローバルキャリアデザインセンター副センター長・三須 敏幸）
- ・特別研究員の紹介と活動内容（平成29年度第1期広島大学特別研究員）
- ・特別研究員による成果報告

- ①照喜名 歩(平成28年度第2期広島大学特別研究員) 「特別研究員で培った統計分析力～宇宙科学からテスト理論まで～」
- ②姜 影(平成28年度第2期広島大学特別研究員) "Autonomous vehicles: drivers' adaptive ownership and time use behaviors"
- ③Bahaa Aldeen Alghazaway(平成28年度第2期広島大学特別研究員) " Boosting skills necessary for R&D of future technologies "

- ・座談会





(2) 第4回広島大学特別研究員活動報告会

日時：平成30年2月20日(火) 15:00～16:45

場所：学生プラザ1F東側（インターネットによるライブ配信あり）

参加者：36名

内容：

- ・特別研究員制度について（グローバルキャリアデザインセンター副センター長・三須敏幸）
- ・特別研究員の紹介（平成29年度第2期広島大学特別研究員）
- ・特別研究員による活動報告
 - ①Chaudhry Tehreem(平成29年度第2期) "Long-Term Internship at UNITAR Hiroshima Office"
 - ②長江 綾子(平成29年度第1期) 「特別研究員成果報告」
 - ③近藤 祐介(平成29年度第1期) 「キャリア・能力開発の1年間の取り組みと成果」
 - ④山根 崇史(平成29年度第1期) 「特別研究員制度を活用した研究者としてのスキルアップ」
- ・座談会

①Small talk “How do you decide your future career ?”

i .藤井 創太郎(大学院生物圏科学研究科・助教)(平成 29 年 12 月まで平成 29 年度第 1 期) 「特別研究員の 1 年間の活動」

ii .Andhang Rakhmat Trihamdani(平成 29 年度第 2 期) " How does my research help to start my career?"

②フリートーク

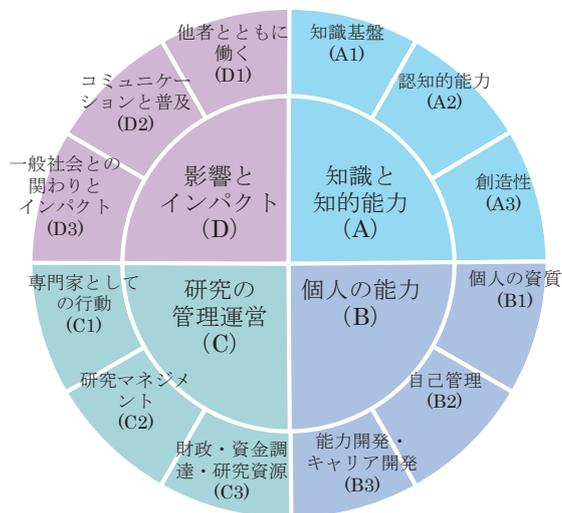


10-1-2. HIRAKU 実践プログラム

研究キャリアの初期段階にある博士課程後期学生(D)及び若手研究者(PD)を対象に、新分野に挑戦する活力のある研究人材の育成を目的としたプログラム(HIRAKU 実践プログラム)を提供している。

HIRAKU 実践プログラムは、大学院共通授業科目及び独自セミナー等から、一定以上の科目やセミナーを履修・受講することで、社会の多方面で活躍できる素養を身につけた「未来を拓く若手研究者」に到達できるように構成されている。

学生や若手研究者は、若手研究者ポートフォリオ(「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の基幹 IT システム)を通じて、これらの履修・受講履歴や達成状況を記録するとともに、研究人材としての能力を自己チェックし、自身の強みやアピールポイントを理解することで、さらにグローバルキャリアデザインセンターにおいて、キャリア形成に必要な指導・助言も受けることができる。



Vitae ©2016 Careers Research Advisory Centre (CRAC) Limited.

平成 29 年度実践プログラム

I. 教育研究基礎科目

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講日	教室
研究の心得	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	2017年6月1日	情報メディア教育研究センターセミナー室 2,3
科学者のための英語プレゼンテーション術	ライティングセンター	河本 健	前期/集中 8/8 9:00~17:00 8/9 9:00~16:30	中央図書館ライブラリーホール
英語論文執筆のためのアカデミック・ライティング	ライティングセンター	Paul W. L. Lai	前期/集中 9/13-14 9:00~16:40	中央図書館ライブラリーホール
学術文章の書き方とその指導法—大学教員を目指して—	教育学研究科	柳瀬 陽介	前期/月 9-10	教育学研究科 K208
大学教員養成講座	教育学研究科	佐藤 万知	後期/集中	別途指示
ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム	量子生命科学プロジェクト研究センター主催		第 14 回 2017 年 12 月 15-16 日	学士会館レセプションホール
プロテオミクス実験法・同実習	理学研究科	泉 俊輔, 片柳 克夫	9/2-9/11	別途指示

II. 内的キャリア養成科目：キャリア開発と自己管理能力の向上

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講日	教室
高度イノベーション人材のためのキャリアデザイン I	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	前期/集中	コンソーシアム人材セミナーとして実施。(詳細は第 8 章)
高度イノベーション人材のためのキャリアデザイン II	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	後期/集中	
人文社会系キャリアデザイン I (キャリア理論)	グローバルキャリアデザインセンター	森 玲子	1T・3T/集中	別途指示
人文社会系キャリアデザイン II (キャリア開発)	グローバルキャリアデザインセンター	森 玲子	2T・4T/集中	別途指示
ストレスマネジメント	グローバルキャリアデザインセンター	原田 淳	後期/月 9-10	未定

III. 外的キャリア養成科目：他者との協働と影響力の向上

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講日	教室
リーダーシップ手法・キャリア開発の視点から	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	1T/月 7-8	西図書館グループ閲覧室 104
イノベーション・マネジメント	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	3T/月 7-8	西図書館グループ閲覧室 104
イノベーション演習	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	後期/集中	別途指示

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講日	教室
長期インターンシップ	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	通年/集中	詳細は第4章
理工系キャリアデザイン1 (コミュニケーション, プレゼンテーション)	グローバルキャリアデザインセンター	原田 淳	前期/集中 9/11-12	総合科学部 K101
理工系キャリアデザイン2 (ファシリテーション)	グローバルキャリアデザインセンター	原田 淳	前期/集中 9/13-14	総合科学部 K101
コミュニケーション能力開発	先端物質科学研究科	藤江 誠	前期/水 7-8	先端物質科学研究科 401N
Developing Designing Ability	国際協力研究科	Akimasa Fujiwara	1st Semester/Fri7-8	IDEC 201
未来博士 3 分間コンペティション	グローバルキャリアデザインセンター主催		2017 年 11 月 25 日	東広島市立芸術文化ホールくらら
HIRAKU 長期インターンシップチャレンジカフェ/特別研究員成果報告会	グローバルキャリアデザインセンター主催		年 2 回	学生プラザ 1F
MOT とベンチャービジネス論	工学研究科	伊藤 孝夫	1T/月 1-2・木 1-2	工学研究科 220
MOT and Venture Business	工学研究科	Takao Ito	2T/Mon3-4・Thu3-4	VBL203
技術移転論	工学研究科	伊藤 孝夫	2T/月 1-2・木 1-2	工学研究科 220
Technology Transfer	工学研究科	Takao Ito	First Semester/Int	VBL203
知的財産及び財務・会計論	工学研究科	伊藤 孝夫	3T・月 1-2・木 1-2	工学研究科 117
技術戦略論	工学研究科	伊藤 孝夫	4T/月 1-2・木 1-2	工学研究科 117

10-1-3. 研究者等紹介

(1) 博士人材インタビュー 博士な日々 ―意外と知らない博士の生活―

第1回 2017年3月8日取材・2017年6月14日HP掲載

広島大学 大学院教育学研究科 文化教育開発専攻 D3※ 柴田 紗知さん

1. 研究者を志したきっかけ
2. 博士課程後期での研究生生活
3. アカデミアという進路の選択
4. “トビタテ！留学 JAPAN”でカリフォルニアへ
5. 家庭科を活かして
6. 今後の予定

※経歴は取材当時



(2) 博士の針路 —博士号のその先—

第4回 2017年5月10日取材・2017年7月26日掲載

日東電工(株) 専務執行役員 CIO 経営インフラ統括部門長 表 利彦 氏

企業と大学における“研究”—研究者として大切なこと—

現在取り組んでいること

日東電工との出会い—大学に再び戻ることを決めるまで
会社の国内留学制度を利用し大学院へ—ひたすら研究に打ち込んだ社会人院生時代

企業と大学の研究の違いとは？

研究に取り組む上で大切なこと—365日24時間考え続ける
学生のみなさんへ—なんでも挑戦してみる



第5回 2017年6月14日取材・2017年8月2日掲載

大正製薬株式会社研究総務部 元・人事労務グループマネージャー 大澤 浩一 氏

革新の視点を持ち、人を大切に作る

大正製薬がブランド製品を提供していける秘密—各部門の連携による相乗効果

大澤氏のこれまでの歩み

大正製薬を選ぶ理由—興味を仕事にする

研究職から人事労務職への転換

大正製薬の発展する方向性及び求めている人材像

医薬品メーカーとして直面している課題

大正製薬に求められている能力

学生へのメッセージ



第6回 2017年7月5日取材・2017年11月2日掲載

サッポロホールディングス株式会社グループ R&D 本部

価値創造フロンティア研究所長 土屋 陽一 氏

0→1ではなく、0→0.01で新しい価値を生み出す

価値創造フロンティア研究所の役割と所長としての働き方

価値創造フロンティア研究所所長としての仕事のやりがいと難しさ

仕事をするうえで大切にしていること



研究者に必要なものとは
0→1ではなく、0→0.01で新しい価値を生み出す
広島大学の学生に一言
後悔しない学生生活を過ごすために

(3) 若手研究者の研究紹介

第16回 2017年2月24日取材・2017年5月16日掲載
徳島大学 大学院生物資源産業学研究部 谷原 史倫 特任助教

「遺伝子改変ブタの可能性」

医学研究の現場で活躍する遺伝子改変ブタ
遺伝子改変ブタの今までとこれから
可能性に富んだ「ブタ」を利用して
社会に還元できる未来を目指して



第17回 2017年7月26日取材・2017年9月22日掲載
広島大学学術院 大学院総合科学研究科 緒形ひとみ 助教

「運動・食事から「健康」を考える」

今まで取り組んできた研究
現在進めている研究
今後の展望－「運動」と「食事」・「睡眠」からみんなを健康に
研究に一途に取り組んだ大学院生時代
学生へのメッセージ－あきらめないこと・学位の「その先」



第18回 2017年9月4日取材・2017年11月6日掲載
山口大学共同獣医学部 病態制御学講座 獣医衛生学分野
渋谷周作 助教



「アミノ酸とタンパク質の「合成と分解」—細胞の中で何が起きているのか、秘密を探る—」

今まで取り組んできた研究—アミノ酸の代謝メカニズム

今後の展望

現在に至るまで—「自分の体の中で何が起きているのか？」を明らかにしたい

学生へのメッセージ

第 19 回 2017 年 10 月 13 日取材・2018 年 3 月 2 日掲載

広島大学学術院 大学院生物圏科学研究科 岩本洋子 助教

「地球環境における空気中微粒子の役割を明らかにする」

現在の研究内容について

大学選びの基準は自分の夢を実現できる場所

学部時代に研究者を志して大学院進学を決める

東京理科大学から東京大学への進学

新天地での新たな学生生活の始まり

最長 40 日間に及ぶ海上でのフィールド調査

研究者を目指す学生に一言



10-2. 山口大学独自の取組み

1 実施体制

山口大学においては、広島大学を中心とするコンソーシアム運営委員会で検討された事項を着実に実施するため、平成27年度に「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業に係る国立大学法人山口大学実行委員会」(以下、「学内実行委員会」と呼ぶ。)を設置した(図1)。以降、事業はこの学内実行委員会の下で実施している。

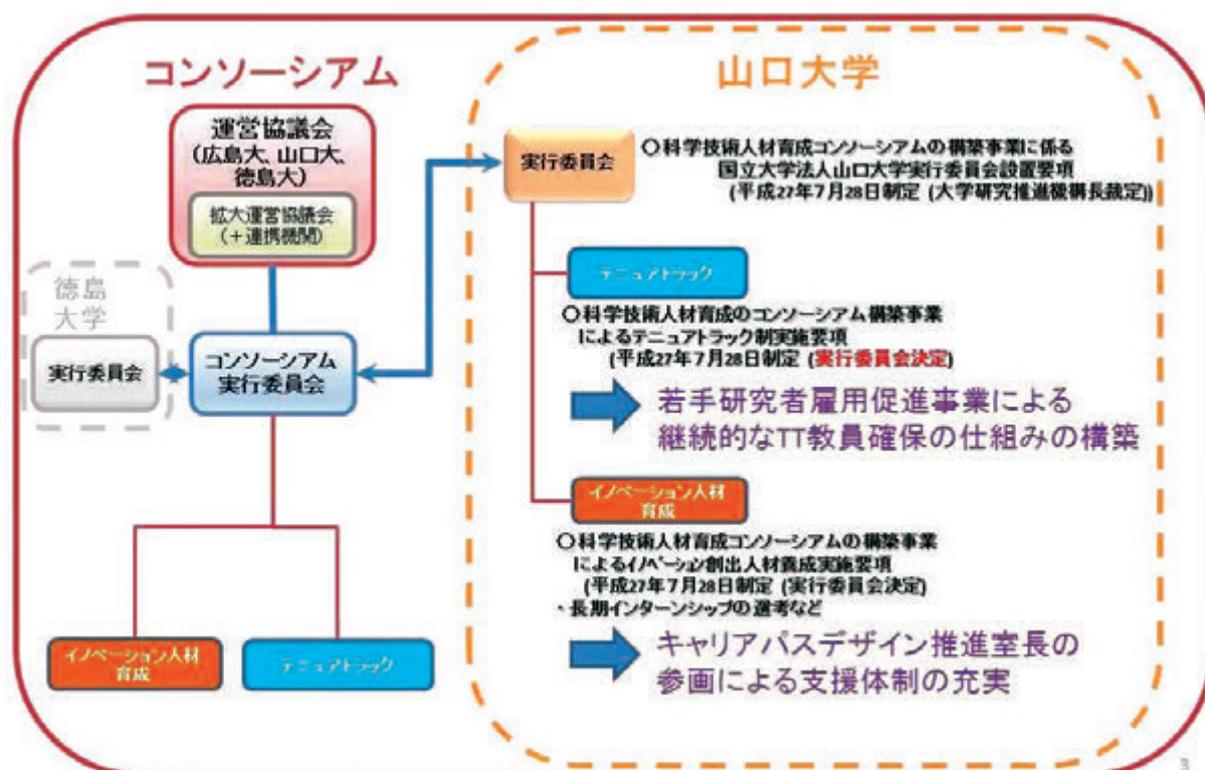


図1 山口大学における本事業の実施体制

2 イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

(1) 定着に向けた学内体制の整備

(ア) 長期インターンシップの共通科目化

山口大学では平成28年度に理系大学院を再編成し創成科学研究科を設置した。この研究科では、共通科目として長期インターンシップが設定されている。またこの研究科では、CPOT(実践教育プログラム)やイノベーション道場「志」(アントレプレナー工房)を立ち上げており、本事業としては今まで同様、今後もこの研究科との連携をはかり、イノベーション人材の養成を定着させていく。

(イ) キャリアパスデザイン推進室との連携

前述の研究科の再編成に合わせ、従来理工学研究科に所属し大学院生の進路開拓の支援をしていたキャリアパス形成支援室が、創成科学研究科所属のキャリアパスデザイン推進室となり、同様

の業務を行うことになっている。キャリアパスデザイン推進室長は学内実行委員会のメンバーでもあり、緊密な連携を可能としている。

(2)長期インターンシップ

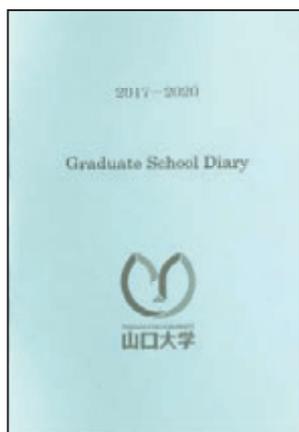
今年度の計画では、長期インターンシップの予定数は2名であったが、上期に応募・選定した2名の他に、受入先との合意が形成されている学生を対象として下期に二次募集し、その結果1名を長期インターンシップ生として追加選定した。これら3名は、平成30年1月末現在、全員各受入先に派遣中である。内訳は下の表1の通りである。

表1 山口大学の長期インターンシップ派遣実績

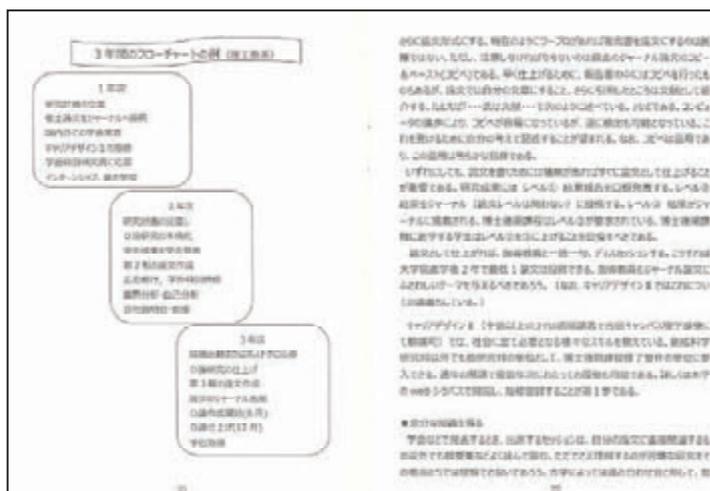
年度	計画数	実績数			派遣期間		派遣された学生・研究者										受入れ先						
		応募者数	採用数	派遣者数 (派遣終了者と派遣中の者の合計)	2か月程度以内	3か月程度以上	学年(派遣時)内訳				所属研究科内訳			性別内訳		国籍内訳		受入先セクター内訳			受入先国内別内訳		
							D1	D2	D3	PD以上	理工農系	医学系	人社会	男性	女性	日本人	留学生	民間企業			公的機関・独法など	国内	海外
																		東証一部上場	それ以外	民間小計			
平成27年度	2	4	2	2		2				2					2				1	1	1	2	
平成28年度	2	4	4	3		1	1	1		2		1	3		1	2			1	1	2	3	
平成29年度	2	3	3	3			1	2		1		2	2	1	1	2			1	2	3		3

(3)その他の取組み:「山口大学大学院生研究手帳」の配布

博士課程学生がイノベーション創出人材となる一助としてコンソーシアム全体で手帳を作成しているが、これを補完するため、本学では博士課程学生(特に創成科学研究科の学生)の科目履修やキャリアデザイン関係科目について、きめ細かにガイダンスするための冊子、「山口大学大学院生研究手帳」を制作し配布した。(図2、表2)



(a)



(b)

図2 「山口大学大学院生研究手帳」の表紙(a)と中身の一部(b)

表2 「山口大学大学院生研究手帳」の配布先

年度	印刷部数	配布部数			配布先キャンパス内訳																
		うち学生への配布数	うち教員への配布数	吉田キャンパス											常盤キャンパス						
				学生(創成科学研究科=理・農のみ)			学生(東アジア研究科=Dのみの大学院)				教員				職員	吉田キャンパス小計	学生		教員全員	職員	常盤キャンパス小計
				D1全員	M1全員	D2以上	D1全員	D2以上	理	農	時間学・総科セ	東アジア等	D1全員	M1(平成28年度は全員)							
平成28年度	1000	732	439	281	9	135	24			68	33	4	4	10	287	19	252	172	2	445	
平成29年度	800	454	221	217	8	113	2	12	6	20	10	0	12	10	193	24	56	175	6	261	

3 テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

(1) 定着に向けた学内体制の整備

(ア) 若手研究者雇用促進事業の強化

本学では、平成27年度に、補助金によらない本学独自のテニユアトラック(TT)教員の雇用事業を開始している(表3^独の3名)。平成28年度には、この制度によるスタート研究費支援や女性教員が採用された場合の部局へのインセンティブ付与など制度を一層整備・強化し、現在に至っている。

(イ) 若手研究者の海外研修等事業を準備

TT制度とは別に、本学予算による若手研究者の海外研修等の制度創設を準備中である。

(2) テニユアトラック教員採用実績

表3に本学において各事業で採用したテニユアトラック教員数を示す。

コンソーシアム事業では、表3^コに示すように、平成27年度2名と平成28年度の1名が採用され、特に平成28年度採用者は女性限定公募による採用であった。平成29年度も採用者は内定済みで3月1日着任予定である。

表3 山口大学のテニュアトラック教員の採用実績

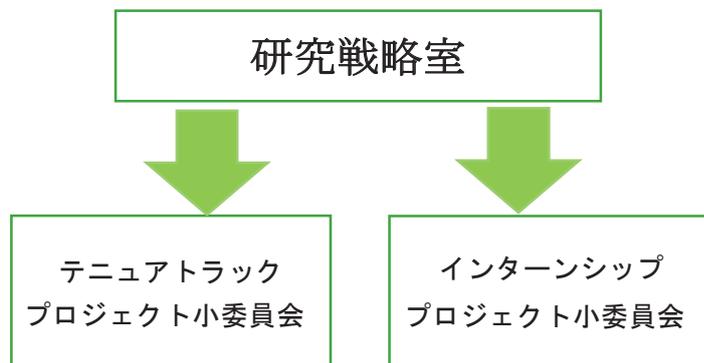
実施部局	採用年度						
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
医学系研究科(医学専攻)	普 1名 W (テニュア獲得)		普 1名 W (転出)				独 1名
創成科学研究科(平成27年度まで理工学研究科(理)または医学系研究科の一部)		普 1名 (テニュア獲得)			コ 1名	独 1名	
創成科学研究科(平成27年度まで理工学研究科(工))	普 1名 (テニュア獲得)	普 1名 (テニュア獲得)	普 1名 (転出)				1名(予定) コ
創成科学研究科(平成27年度まで農学部)			普 1名			コ 1名 W 外	
共同獣医学部		普 1名 W (テニュア獲得)			コ 1名		
時間学研究所					独 1名		
合計	2名	3名	3名		3名	2名	2名
累計	2名	5名	8名	8名	11名	13名	15名
コ	コンソ事業により採用されたTT教員			W	採用されたTT教員が女性であることを示す		
独	補助金によらない山口大学独自制度により採用されたTT教員			外	採用されたTT教員が外国籍であることを示す		
普	テニュアトラック普及・定着事業により採用されたTT教員						

10-3. 徳島大学の個別取組・成果

【本学の実施体制】

事業開始とともに本学の研究戦略室（室長＝研究担当理事・副学長）において、若手研究者の自立・流動促進プログラムを推進する為の「テニュアトラックプロジェクト小委員会」と、イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムを推進する為の「インターンシッププロジェクト小委員会」を設置する等、本事業を推進する体制を整備し、テニュアトラック教員の採用や長期インターンシップの派遣に向けて活動を実施している。

[学内実施体制]



【若手研究者の自立・流動促進プログラム】

テニュアトラック教員の公募に際しては、大学全体として計画的に取り組むため、研究戦略室会議にて、各部局からの採用提案を受けた上で、最も適切と考えられる部局で公募を実施することとしている。

平成29年度は4月にテニュアトラック教員（メタボローム栄養学）を1名採用した。

各教員の今年度の活動は、次のとおりである。

○谷原特任助教（第3期採用）

- ・「遺伝子改変による、医療研究用モデルブタの作出」をテーマに、今年度は新たな遺伝子改変ブタ2種の作製を開始し、随時出産対応を行っている。
- ・アメリカ及び国内での学会に3回参加し、口頭又はポスター発表を行った。
- ・論文は投稿した2本が印刷中
- ・平成30年度科研費に申請するとともに、共同研究拠点事業（熊本大学発生医学研究所）に採択

○Karanjit 特任助教（第4期採用）

- ・①O₂ や CO₂ などの小分子を活性化させるための高活性で再利用可能なナノクラスター触媒の設計と調製及び周囲条件下での多成分カップリング反応に関する研究、②不斉炭素・炭素結合形成反応のためのキラル不均一触媒の開発に関する研究を実施
- ・国際学会でのポスター発表1回

- ・論文は、1報が掲載され、4報が投稿中
- ・学部生、大学院生向け科学コミュニケーション能力養成の講義（英語）を担当
- ・平成30年度科研費に申請中

○黒田特任助教（第6期採用）

- ・「転写因子 IRF7 による脂肪細胞炎症-代謝制御システムの解明」をテーマに、脂肪細胞において肥満・メタボリックシンドロームに関連する転写因子、IRF7 を同定した。また、IRF7 欠損マウスに対し糖・エネルギー代謝、遺伝子発現解析を行うことで IRF7 の生理機能を検討した。
- ・ポスター発表1回
- ・論文は、2本掲載（英語原著論文（共著）及び英語総説、いずれも査読有）
- ・学部生、大学院生向け講義、実習及び研究指導を担当
- ・平成30年度科研費に申請中

また、平成30年度10月以降に採用するテニュアトラック教員の分野について、研究戦略室内で検討した結果、ロボット工学分野で1名公募することが決定した。

なお、テニュアトラック教員の公募に際しては、特に次の点に配慮している。

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 本学 HP 等に、英語及び日本語の公募要領を掲載するとともに、公募期間は原則2か月を確保するよう努力することで、幅広い人材を募る。
- ・公募要領に女性研究者への支援を明記することにより、女性研究者の応募を促す。
- ・公募期間の長期確保、英語版公募要領の作成、質問への英語対応等外国人研究者が応募しやすい環境を確保する。

採用後は、研究支援・産官学連携センターに配置している URA により、外部資金獲得に関するサポート（公募情報提供、説明会開催、申請書作成支援等）等を行っている。

[テニュアトラック教員採用数（計画）]

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
春着任		第2期	第4期	第6期	第8期	第10期	第12期	第14期
秋着任	第1期 (冬)	第3期	第5期	第7期	第9期	第11期	第13期	第15期
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
コンソ全体	4	8	8	8	8	8	8	8

[テニュアトラック教員採用数（実績）]

	公募開始	公募締切	最終選考	採用日	応募分野	応募者数
第3期	H27.4.28	H27.6.25	H27.8.26	H28.2.1	家畜繁殖学	1
第4期	H27.10.13	H27.12.28	H28.2.29	H28.4.1	有機合成薬学	7(1)
第6期	H28.10.11	H28.12.12	H29.2.1	H29.4.1	メタボリズム栄養学	1
第9期	H29.12.28	H.30.4.2	未定	未定	ロボット工学分野	

※（ ）は女性

【イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム】

平成26年度から、毎年2名の長期インターンシップ派遣を目標として事業を進めている。平成29年度は、昨年度に引き続き全学的な事業展開を図るべく、これまで本事業で派遣実績のない総合科学教育部、薬科学教育部の学生にも声かけをするなどした結果、初めて薬科学教育部の学生を長期インターンシップに派遣することとなった。

また、平成28年度に派遣した学生について、今年度に1名は企業（建設コンサルタント）に就職が内定し、もう1名は、昨年度の派遣先とPET（陽電子放射断層撮影法）によるイメージングを用いた共同研究を開始した。

なお、派遣先については、派遣する学生と受入先のニーズを踏まえた多様なものになっている。

[長期インターンシップ派遣（計画）]

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
前期		第2期	第4期	第6期	第8期	第10期	第12期	第14期
後期	第1期	第3期	第5期	第7期	第9期	第11期	第13期	第15期
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
コンソ全体	6	18	18	18	18	18	18	18

[長期インターンシップ派遣（実績）]

	所属	学年	派遣先	派遣期間
第1期	2名選考のみ			
第2期	先端技術科学教育部	D3	三菱レイヨン(株)・広島	H27年9月3日～12月3日
第3期	先端技術科学教育部	D1	(株)インフォマティクス・大阪	H27年11月9日～H28年1月9日
第4期	先端技術科学教育部	D2	ニタコンサルタント(株)・徳島	H28年6月10日～8月9日
第5期	栄養生命科学教育部	D1	理化学研究所・兵庫	H28年10月1日～12月31日
第7期	薬科学教育部	D1	東京都医学総合研究所・東京	H30年2月1日～3月31日

【その他の活動】

平成29年度は、博士後期課程学生のコミュニケーション能力の向上を目的として、毎年秋に開催している未来博士3分間コンペティションについて、初の学内選考会を開催した。学内で候補者を選抜してから本選に出場させる試みを行ったところ、日本語部門3名、英語部門4名の博士後期課程学生が参加し、結果的に4名の学生が受賞した。（平成28年度は6名中1名が受賞）

また、参加者の中には、面接を経て、日本学術振興会の特別研究員に採用された者もいる。

なお、平成30年3月に日本学術振興会の特別研究員説明会を計画しており、広島大学、山口大学、本学の3大学間をTV会議システムでつなぐ方式で開催する予定である。

[未来博士3分間コンペティション 2017 参加者]



【特筆すべき活動】

コンソーシアムの連携機関への新規加入を促進するため、広島大学とともに事業紹介の事業向けパンフレットを作成し、企業、機関への説明を積極的に行っている。平成29年度は、本事業についての理解・関心を広めるべく、次のイベントに参加し、ポスター展示・紹介を行った。

- ・ 8月29日、30日 RA協議会第3回年次大会（徳島市）
- ・ 9月19日 社会産業理工学研究交流会（徳島市）
- ・ 10月12日～14日 徳島ビジネスチャレンジメッセ2017（徳島市）
- ・ 1月31日 四国オープンイノベーションワークショップ in 高知（高知市）

また、博士人材を増やすための取組として、学生の意識啓発のためにコンソーシアムで作成した小冊子や、新D1の学生が自覚を持って大学院生活を送ることを狙って作成した「4年手帳」を、入学ガイダンス時に配布した。

10-4. 日本学術振興会（JSPS）特別研究員説明会

JSPS担当者による特別研究員制度の説明会を徳島大学常三島キャンパスで開催し、徳島大学蔵本キャンパス、広島大学、山口大学をTV会議システムでつなぎ、各制度に関する説明会を実施した。三大学に所属する多数の大学院生・研究者が、普段は行えないJSPS担当者との質疑応答を直接行うことができる貴重な機会となった。その後の各会場では、採用者の経験談などを元に、質疑応答を行った。受入相手へのコンタクトの取り方など、ノウハウを共有すると共に、若手研究者等が自身のキャリアを具体的に考える場となった。

日時:2016年3月24日(木) 14:30～17:15

会場: 主会場 徳島大学 常三島キャンパス 共通教育6号館2階 201(総合科学部地区)

同時配信 徳島大学 蔵本キャンパス 総合研究棟2階 スキルス・ラボ8

広島大学 東広島キャンパス 本部棟2階第一会議室

広島大学 霞キャンパス 研究棟B2F歯学部小会議室(第一部のみ)

11. 外部評価

11-1. 外部評価委員会

若手研究人材養成担当では、外部の関連組織・有識者の方に外部評価委員を委嘱し、本システムの外部評価を受けている。外部の方の意見を真摯に受け止め、より良い取組みとするよう努めている。

11-1-1. 第2回外部評価委員会

日時:平成28年8月5日(金)13:30~15:40

場所:シェラトングランドホテル広島 3F 水輝

外部評価委員(五十音順)

三菱レイヨン株式会社大竹研究所 主席研究員	入江 菊枝
広島県商工労働局 イノベーション推進部長	上丸 敦仁
経済産業省中国経済産業局 地域経済部長	大原 晃洋
近畿大学工学部教授, 次世代基盤技術研究所 3D 造形技術研究センター長	京極 秀樹
公益財団法人とくしま産業振興機構 理事長	熊谷 幸三
東京工業大学理学院化学系 教授	鈴木 啓介
株式会社広島銀行法人営業部シニアマネージャー	向井 稔
地方独立行政法人山口県産業技術センター イノベーション推進センター医療県連推進チーム プロジェクトプロデューサー	安田 研一

【総合講評】

外部評価委員の意見を集約すると、次のとおりである。

本プログラムは、平成28年度までの3年間において目標に向けて着実に実行され、中間評価において、すでにA評価を得ている優れたプログラムである。特に、テニユアトラック導入については、その成果が顕著であり、女性教員、外国人教員の採用についても目標以上の成果が得られており大いに評価できる。また、長期インターンシップを通じて企業への就職がかなりの数出ている点は評価できる。ただし、地方創生の観点からは、地域企業へのさらなる就職を高めることが必要である。PDCAも着実に回っており、本プログラムの改善が行われているが、現状の課題を再度抽出して実行することにより、初期の目標以上の成果が期待できる。外部評価委員会として、以下の課題を挙げておくので、さらなる改善に尽力して頂きたい。

1. 外部評価委員としては、学生あるいは企業側の生の声を聴くことができないので、課題を十分に把握できないが、運営委員会として課題を明確に抽出して、プログラムのさらなる改善

に努めてい頂きたい。

2. プログラムのアウトカムが明確に見えてこない。これは、企業側の視点が欠けているためではないかと推察する。今後、本プログラムの効果の測定法の確立や本プログラムを独立して運営していくためには、企業側の視点に立った改善策の立案が重要である。残りの期間も短いので、検討して頂きたい。
3. 地域との連携強化が重要である。特に連携機関があるにもかかわらず、十分に連携が取れているようには思えない。連携が十分に取れている場合には、エビデンスを出して、強調すべきである。

今後、企業側からの補助金による運営の仕組みを検討するには、重要な課題である。地方創生の観点からも、各県の総合戦略の観点からも地域企業との連携を重視して頂きたい。

以上の課題を検討して頂き、地方創生を推進する一層優れた人材育成プログラムを構築して頂き、全国の目標となるプログラムとなることを期待します。

12. 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 中間評価

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業（次世代研究者育成プログラム）
の平成26年度選定機関として、事業の中間評価を受けた。

平成28年6月30日（木） 中間評価における成果報告書を提出

平成28年10月23日（日） 中間評価ヒアリング

発表開始時間 14時40分～

場所 国立研究開発法人科学技術振興機構 東京本部（サイエンスプラザ）

(中間評価)

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 次世代研究者育成プログラム (実施期間：平成26～33年度)

コンソーシアム名：未来を拓く地方協奏プラットフォーム

代表機関：広島大学（総括責任者：越智 光夫）

共同実施機関：山口大学、徳島大学

取組の概要

中国四国地方の大学等を中心としたコンソーシアムを構築し、広島大学、山口大学、徳島大学が共同してテニュアトラック研究者を公募、選考し、より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集める。また、多様な雇用・流動形態（クロスアポイントメント、ラボローテーション等）の導入により、若手研究人材が異なる知と交わり、ネットワークを構築できるように支援するとともに、女性枠を設定し、女性の活躍促進につなげる。

博士課程（後期）学生を含む若手研究人材が、地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立できるよう、実践的な人材の養成・活躍を可能とするプラットフォームを各大学等で共同して構築する。また、トランスファラブルスキルの養成に必要なリソースの共有を図り、シーズ・ニーズのマッチングにより、インターンシップ、就職、共同研究等の機会を増やす。

若手研究人材の養成・活躍を通じて、コンソーシアム内外の知の循環を加速させ、地域全体の社会的課題の解決やイノベーションの創出を図り、地方再生につなげる。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (システム構築)	進捗状況 (取組の内容)	体制構築	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

中国四国地域全体を巻き込んだ取組となっており、2年間でコンソーシアム連携機関が17機関から45機関へ拡大した実績は、本事業の大きな波及効果として評価できる。また、テニユアポストを準備し、国際公募と厳正な選考を経て言語学、経済学、自然科学と広範囲にわたって優秀な次世代研究者を採用しており、外国籍、女性の研究者割合も高く、計画に沿って研究者育成を進めていることは、評価できる。さらに、イノベーション創出人材育成のための多様なプログラムが実施されており、若手研究人材ポートフォリオ、未来博士3分間コンペティション、若手シーズ発表会、インターンシップ等、特徴ある取組と評価できる。今後は、企業等とのクロスアポイントメント制度の具体化を図る等、さらなる雇用システムの改革を期待する。

・**進捗状況(全般)**：次世代研究者育成、イノベーション創出人材育成ともに、計画に沿って順調に実施されており、教員の公募・採用実績では、女性限定公募によって女性採用割合が目標を超えていることは、評価できる。また、中国四国地域への波及、評価の仕組みの構築等の選定時コメントに対して適切に対応していることは、評価できる。

・**進捗状況(システム構築)**：若手研究人材のキャリアアップを図る仕組みとして、若手研究人材ポートフォリオ、コンソーシアム教員研修、メンター制度等の実施は、評価できる。また、次世代研究者は毎年コンソーシアムで評価を受け、着任から3年までに行われる中間評価及び4年半までに行われる最終評価があり、次世代研究者が研究業績について適切に評価を受けるシステムが構築されていることは、評価できる。

・**進捗状況(取組の内容)**：採用に当たり国際公募を行い、二次選考は公開面接形式として、公正公平な審査が行われたことや、女性限定公募等で女性を積極的に採用し、外国籍研究者の割合も高いことは、評価できる。また、若手研究人材がテニユアトラック制により採用されており、自立した研究環境を得るとともに、業績に応じて将来の安定した職が確保されていることは、評価できる。

若手研究人材ポートフォリオの本格稼働、未来博士3分間コンペティション、若手シーズ発表会等に取組み、インターンシップ等、博士課程(後期)学生やポストドクターの多様なキャリアパスの確保を支援する取組となっている点は、評価できる。

・**体制構築**：運営協議会は高い頻度で実効性を持って開催されており、その下にコンソーシアム実行委員会が機能していることは、評価できる。また、地域企業等を含めた外部評価委員会を設置しており、地域での人材育成についての共通見解を醸成するためには有効な方法であると評価できる。また、コンソーシアム連携機関が17機関から45機関へと拡大した実績は、中国四国地方への波及効果という点で評価できる。

・**今後の進め方**：今後の計画はこれまでの取組を継続発展させる内容であり、6年度目以降についても、具体的な数値目標及び具体的な自主財源の確保に向けた見通しがあり、構築したシステムを自立的に維持し、継続し得る計画となっている点は、評価できる。今後は、クロスアポイントメント制度やラボローテーション制度等、地域企業を含めた人材の安定雇用や流動化の方策を進めることを期待する。

未来を拓く地方協奏プラットフォーム

平成 29 年度（2017 年度）成果報告書

発行年月：平成 30 年 3 月

編集・発行：「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」運営協議会事務局

広島大学グローバルキャリアデザインセンター

若手研究人材養成担当

所在地：〒739-8514 東広島市鏡山一丁目 7 番 1 号（学生プラザ 2F）

TEL：082-424-2058

FAX：082-424-4565

（無断複写・転載を禁じます。）



未来を拓く地方協奏プラットフォーム

HIRAKU

Home for Innovative Researchers and
Academic Knowledge Users